

9.2 生物・生態系

9.2.1 現況調査

(1) 調査事項及びその選択理由

調査事項及びその選択理由は、表 9.2-1 に示すとおりである。

表 9.2-1 調査事項及びその選択理由

調査事項	選択理由
①生物の状況 ②生育・生息環境 ③生態系の状況 ④土地利用の状況 ⑤法令等による基準等 ⑥東京都等の計画等の状況	事業の実施に伴い陸上植物の植物相及び植物群落の変化、陸上動物の動物相及び動物群集の変化、生育・生息環境の変化及び生態系の変化が考えられることから、計画地及びその周辺について、左記の事項に係る調査が必要である。

(2) 調査地域

調査地域は、図 9.2-1 に示す計画地及びその周辺とした。

(3) 調査方法

1) 生物の状況

調査は、既存資料調査及び現地調査による方法によった。

ア．陸上植物の状況

調査方法は、表 9.2-2 に示すとおりである。

表 9.2-2 陸上植物の調査方法

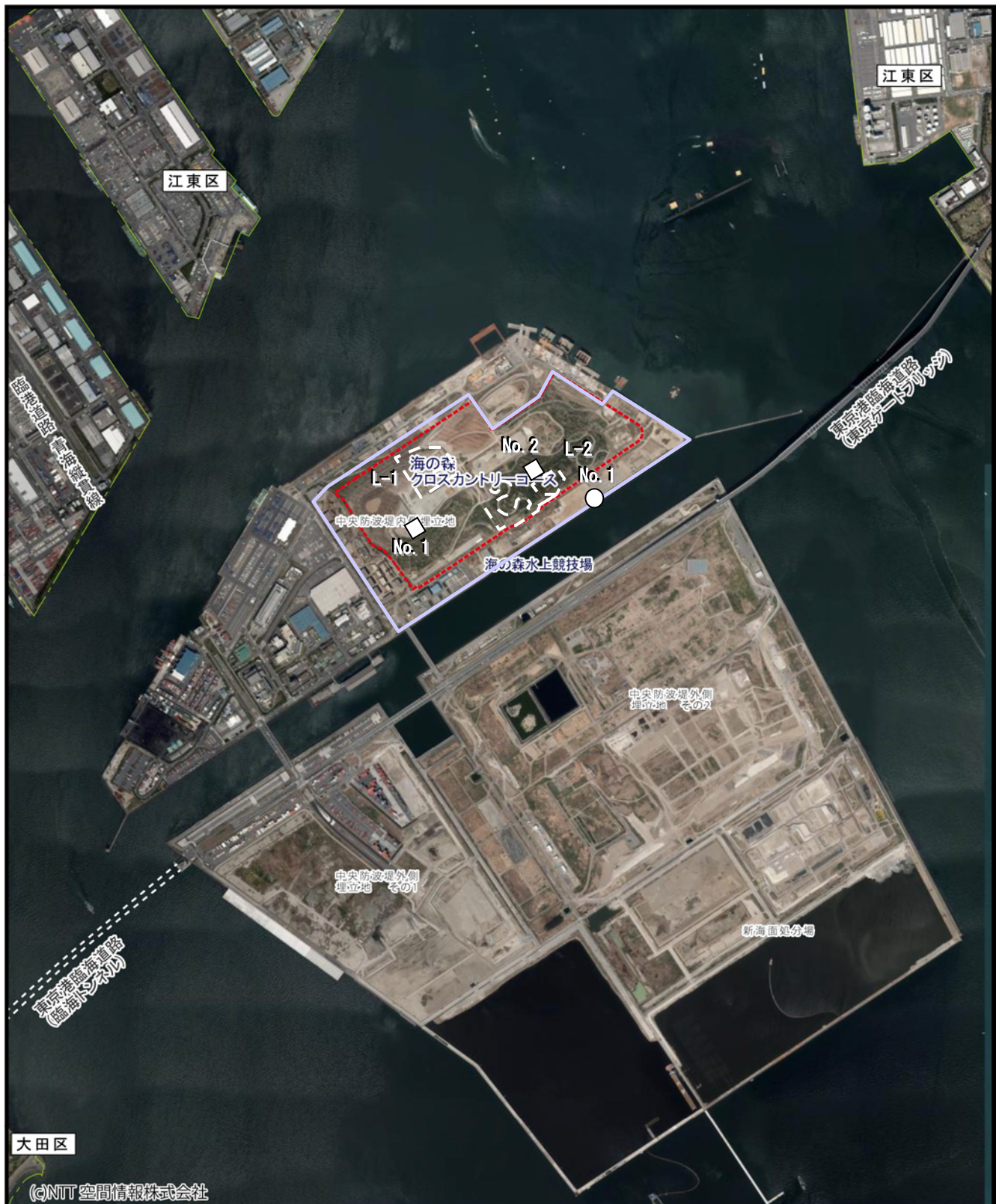
調査事項	調査範囲・地点	調査時期・期間	調査手法
・植物相 ・植物群落	計画地及びその周辺とした。 (図 9.2-1 参照)	・植物相 夏の一季とした。 ・植物群落 秋の一季とした。	・植物相 現地踏査 ・植物群落 現地踏査、航空写真の判読及び既存資料の整理により、植生図を作成した。

イ．陸上動物の状況

調査方法は、表 9.2-3 に示すとおりである。

表 9.2-3 陸上動物の調査方法

調査事項	調査範囲・地点	調査時期・期間	調査手法
・哺乳類 ・鳥類 ・両生類・は虫類 ・昆虫類 ・クモ類	計画地及びその周辺とし、以下の地点とした。 (図 9.2-1 参照) ・哺乳類 1 地点とした。 ・鳥類 2 ラインとした。 ・昆虫類 2 地点とした。 ・クモ類 2 地点とした。	・哺乳類 春、夏、秋、冬の四季とした。 ・鳥類 初夏、夏、秋、冬の四季とした。 ・両生類・は虫類 春、初夏、夏、秋、冬の五季とした。 ・昆虫類 春、夏、秋の三季とした。 ・クモ類 春、夏、秋の三季とした。	・哺乳類 任意観察法、トラップ法、夜間調査(バットディテクター)による。 ・鳥類 任意観察法、メッシュセンサス法による。 ・両生類・は虫類 任意観察法による。 ・昆虫類 任意採取法、ベイトトラップ法、ライトトラップ法、スウィーピング・ビーティング法による。 ・クモ類 スウィーピング・ビーティング法による。



凡 例

計画地



任意観察法調査範囲



哺乳類トラップ調査地点 (No.1)



鳥類ラインセンサス (L-1~L-2)



昆虫類トラップ調査地点 (No. 1~No. 2)



Scale 1:25,000

0 250 500 1,000m

図 9.2-1 生物・生態系調査地点
(陸域)

2) 生育・生息環境

ア. 地形等の状況

調査は、「地形図」（国土地理院）、「土地条件図」（平成 25 年 8 月 国土地理院）の既存資料の整理によった。

イ. 植生等の状況

調査は、「自然環境保全基礎調査 植生調査」（平成 11 年～ 環境省自然環境局生物多様性センター）の既存資料の整理によった。また、現地調査により、計画地及びその周辺の植生の状況を確認した。調査は、平成 26 年 7 月 25 日に実施した。

ウ. 大気環境

調査は、既存資料を用い、計画地周辺又は最も近傍に位置する一般環境大気測定局（以下「一般局」という。）3 地点、自動車排出ガス測定局（以下「自排局」という。）1 地点における調査結果を整理した。

調査地点は、表 9.2-4 及び図 9.2-2 に示すとおりである。

表 9.2-4 既存資料調査地点(大気質の状況)

区 分	地点番号	測定局名	所在地	設置主体	調査期間
一般環境 大気測定局	No. 1	中央区晴海測定局	中央区晴海3 - 6 - 1	東京都	平成27年4月1日 ～平成28年3月31日
	No. 2	港区台場測定局	港区台場1-3-1	東京都	
	No. 3	江東区豊洲 測定局	江東区豊洲4-11-18	江東区	
	No. 4	大田区京浜島 測定局	大田区京浜島 2-10-2	大田区	
自動車排出ガス 測定局	No. 5	三ツ目通り辰巳 測定局	江東区辰巳1-9地先	東京都	

注) 地点番号は、図 9.2-2 に対応する。

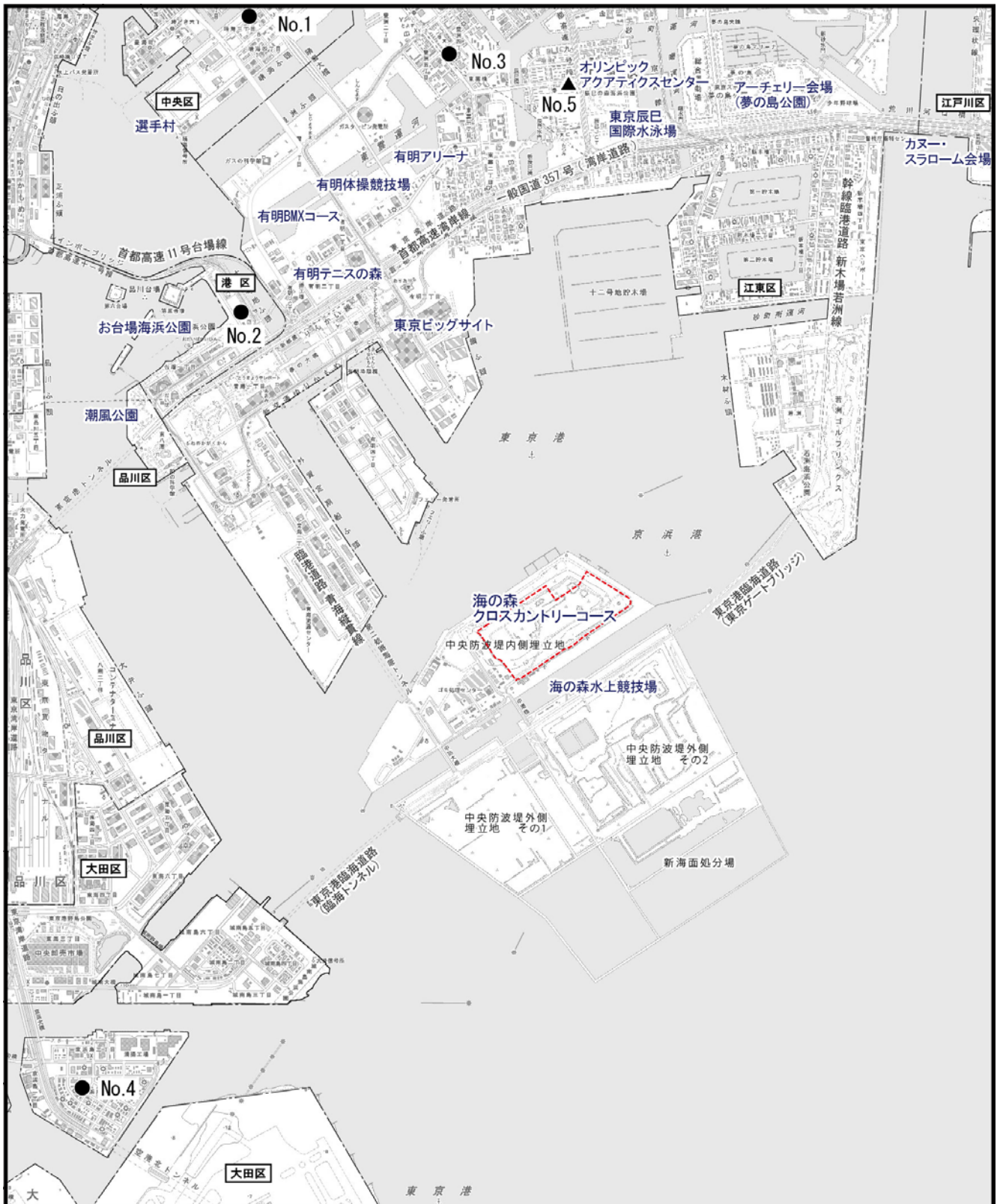
出典：「大気汚染結果ダウンロード」（平成 28 年 9 月 16 日参照 東京都環境局ホームページ）

https://www.kankyo.metro.tokyo.jp/air/air_pollution/result_measurement.html

「大気汚染常時測定」（平成 28 年 9 月 16 日参照 江東区ホームページ）

<https://www.city.koto.lg.jp/seikatsu/kankyo/7289/17862.html>

「平成 26 年度版大田区の環境調査報告書」（平成 28 年 1 月 大田区環境清掃部環境・地球温暖化対策課）



凡 例

計画地

- 一般環境大気測定局 (No.1 ~ 4)
- ▲ 自動車排出ガス測定局 (No.5)



Scale 1:50,000

0 500 1,000 2,000m

図 9.2-2 大気汚染常時監視測定局
(既存資料調査)

エ. 地域社会とのつながり

調査は、当該地域の利用状況において、動植物の生育・生息環境の有する機能との関わりの整理によった。

3) 生態系の状況

調査は、現地調査により確認された動植物の生物相互の関わりの整理によった。

4) 土地利用の状況

調査は、「東京の土地利用 平成 23 年東京都区部」（平成 25 年 3 月 東京都都市整備局）等の既存資料の整理によった。

5) 法令等による基準等

調査は、文化財保護法（昭和 25 年法律第 214 号）、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成 4 年法律第 75 号）、鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律（平成 14 年法律第 88 号）等の法令の整理によった。

6) 東京都等の計画等の状況

調査は、「第 11 次鳥獣保護管理事業計画」（平成 27 年 3 月 東京都）、「植栽時における在来種選定ガイドライン」（平成 26 年 5 月 東京都）の計画等の整理によった。

(4) 調査期間

陸上動植物の現地調査は、表 9.2-5 に示す時期に実施した。

表 9.2-5 調査時期

調査地域	調査項目		調査時期
海の森クロスカントリーコース	陸上植物の状況	植物相	夏季：平成 27 年 8 月 10 日～14 日
		植物群落	秋季：平成 27 年 10 月 13 日～16 日
	陸上動物の状況	哺乳類	秋季：平成 25 年 11 月 27, 28, 29 日 冬季：平成 26 年 1 月 20, 21 日 春季：平成 26 年 5 月 14, 15 日 夏季：平成 26 年 8 月 14, 15 日
		鳥類	春季：平成 27 年 6 月 5 日 夏季：平成 27 年 7 月 24 日 秋季：平成 27 年 10 月 9 日 冬季：平成 28 年 2 月 2 日
		は虫類	秋季：平成 25 年 11 月 29 日 冬季：平成 26 年 1 月 21 日 春季：平成 26 年 5 月 15 日 初夏季：平成 26 年 6 月 25 日 夏季：平成 26 年 8 月 14 日
		両生類	秋季：平成 25 年 11 月 29 日 冬季：平成 26 年 1 月 21 日 春季：平成 26 年 5 月 15 日 初夏季：平成 26 年 6 月 25 日 夏季：平成 26 年 8 月 14 日
		昆虫類	春季：平成 25 年 5 月 16, 17 日 夏季：平成 25 年 8 月 14, 15 日 秋季：平成 25 年 10 月 21, 22 日
		クモ類	春季：平成 25 年 5 月 16, 17 日 夏季：平成 25 年 8 月 16 日 秋季：平成 25 年 10 月 21, 22 日

(5) 調査結果

1) 生物の状況

ア. 陸上植物の状況

(ア) 確認種

現地調査により、計画地及びその周辺において表 9.2-6(1)～(4)に示すとおり 74 科 265 種の植物が確認された。

調査範囲は、現在も継続して改変が行われている地区、改変後に放置されている造成地、植栽の行われている植樹地となっている。改変地区は、主に造成裸地となっており、低茎の種がわずかに生育している程度である。改変後に放置されている造成地では、高茎のセイタカアワダチソウ群落がみられ、アレチギシギシ、メマツヨイグサ、アメリカオニアザミ、オオアレチノギク、ヒメムカシヨモギ、ククイモ、イヌムギなどの空地雑草が生育している。植樹地は、スダジイ、マテバシイ、ユズリハ、クロマツ、タブノキ、オオシマザクラなどの植樹木のほか、トベラ、ムクノキ、エノキなどの木本の実生やヒメムカシヨモギ、セイタカアワダチソウなどの高茎の草本が生育している。

表 9.2-6(1) 植物確認種

No.	科名	和名
1	トクサ	スギナ
2	イチョウ	イチョウ
3	マツ	エゾマツ
4		アカマツ
5		クロマツ
6	スギ	スギ
7	ヒノキ	ヒノキ
8		ヒノキアスナロ
9	マキ	イヌマキ
10	イチイ	イチイ
11		キヤラボク
12	ヤマモモ	ヤマモモ
13	ヤナギ	セイヨウハコヤナギ
14		シダレヤナギ
15		ジャヤナギ
16		オノエヤナギ
17		コゴメヤナギ
18	カバノキ	オオバヤシバシ
19		シラカンバ
20		アカシデ
21	ブナ	スダジイ
22		マテバシイ
23		クヌギ
24		アラカシ
25		シラカシ
26		ウバメガシ
27		コナラ
28	ニレ	ムクノキ
29		エノキ
30		アキニレ
31		ケヤキ
32	クワ	クワクサ
33		カナムグラ
34		マグラ
35		ヤマグラ
36	タデ	オオイヌタデ
37		イヌタデ
38		イシミカワ
39		ママコノシリヌグイ
40		イタドリ
41		アレチギシギシ
42		ナガバギシギシ
43		ギシギシ
44		エゾノギシギシ
45	ヤマゴボウ	ヨウシュヤマゴボウ
46	スベリヒユ	スベリヒユ
47	アカザ	シロザ
48		ケアリタソウ
49		ウラジロアカザ

表 9.2-6(2) 植物確認種

No.	科名	和名
50	ヒユ	ヒカゲイノコズチ
51		ヒナタイノコズチ
52	クスノキ	クスノキ
53		ヤブニッケイ
54		タブノキ
55		シロダモ
56	キンボウゲ	センニンソウ
57	アケビ	アケビ
58	ドクダミ	ドクダミ
59	ツバキ	ヤブツバキ
60		ユキツバキ
61		サカキ
62		モッコク
63	ケシ	タケニグサ
64		ケナシチャンバギク
65		ヒナゲシ
66	アブラナ	マメグンバイナズナ
67	マンサク	イスノキ
68	ユキノシタ	ウツギ
69	トベラ	トベラ
70	バラ	ヘビイチゴ
71		ヤブヘビイチゴ
72		オキジムシロ
73		セイヨウミザクラ
74		ヤマザクラ
75		オオシマザクラ
76		ウメ
77		タチバナモドキ
78		シャリンバイ
79		ノイバラ
80		ナワシロイチゴ
81		ユキヤナギ
82	マメ	イタチハギ
83		ヤブマメ
84		ツルマメ
85		コマツナギ
86		マルバヤハズソウ
87		ヤハズソウ
88		ヤマハギ
89		メドハギ
90		ネコハギ
91		コメツブウマゴヤシ
92		シロバナシナガワハギ
93		シナガワハギ
94		クズ
95		ハリエンジュ
96		エンジュ
97		ムラサキツメクサ
98		シロツメクサ
99		ヤハズエンドウ
100	カタバミ	カタバミ
101		ウスアカカタバミ
102		オッタチカタバミ
103	トウダイグサ	エノキグサ
104		ショウジョウソウ
105		オオニシキソウ
106		コニシキソウ
107		アカメガシワ
108		ナンキンハゼ
109	ユズリハ	ユズリハ
110	ミカン	カラスザンショウ
111	センダン	センダン
112	ウルシ	ヌルデ
113		ハゼノキ
114		ヤマハゼ
115	カエデ	イロハモミジ
116		アメリカハナノキ
117	トチノキ	トチノキ
118	モチノキ	イヌツゲ
119		モチノキ
120		クロガネモチ
121	ブドウ	ノブドウ
122		ヤブガラシ
123		エビツル
124	アオイ	イチビ
125		タチアオイ
126		ハマボウ
127		ゼニアオイ
128	グミ	ナツグミ
129		ナワシログミ
130		アキグミ
131	ウリ	アレチウリ
132		キカラスウリ
133	ミソハギ	サルスベリ

表 9.2-6(3) 植物確認種

No.	科名	和名
134	アカバナ	メマツヨイグサ
135		コマツヨイグサ
136		ユウゲショウ
137	ミズキ	ミズキ
138	ウコギ	カクレミノ
139		ヤツデ
140	セリ	ノラニンジン
141	ツツジ	サツキ
142	サクラソ	コナスビ
143	カキノキ	カキノキ
144	エゴノキ	エゴノキ
145	モクセイ	ネズミモチ
146		トウネズミモチ
147		オリーブ
148		キンモクセイ
149	リンドウ	ハナハマセンブリ
150	ガガイモ	ガガイモ
151	アカネ	ヘクソカズラ
152	ヒルガオ	コヒルガオ
153		ヒルガオ
154	ムラサキ	ヒレハリソウ
155	クマツヅラ	アレチハナガサ
156		ヒメクマツヅラ
157		ダキバアレチハナガサ
158	シソ	トウバナ
159		カキドオシ
160		マルバハッカ
161		イヌコウジュ
162		シソ
163		アオジソ
164	ナス	クコ
165		アメリカイヌホオズキ
166		ワルナスビ
167		ヒヨドリジョウゴ
168	ゴマノハグサ	ヒロードモウズイカ
169	ノウゼンカズラ	ノウゼンカズラ
170	キツネノマゴ	キツネノマゴ
171	オオバコ	オオバコ
172		ヘラオオバコ
173	スイカズラ	スイカズラ
174		サンゴジュ
175		ハコネウツギ
176	キク	ブタクサ
177		クワモドキ
178		クソニンジン
179		ヨモギ
180		ヒロハホウキギク
181		ハウキギク
182		アメリカセンダングサ
183		コセンダングサ
184		アメリカオニアザミ
185		アレチノギク
186		オオアレチノギク
187		ヒメムカシヨモギ
188		ハルジオン
189		セイタカハハコグサ
190		ウラジロチチコグサ
191		キクイモ
192		ブタナ
193		アキノノゲシ
194		ホソバアキノノゲシ
195		トゲチシャ
196		フキ
197		セイタカアワダチソウ
198		オニノゲシ
199		ノゲシ
200		ヒメジョオン
201		セイヨウタンポポ
202		イガオナモミ
203		オオオナモミ
204	ヒルムシロ	ツツイトモ
205	ユリ	ニラ
206		スカシユリ
207		ヤブラン
208	ツユクサ	ツユクサ
209	イネ	カモジグサ
210		メリケンカルカヤ
211		コブナグサ
212		カラスムギ
213		イヌムギ
214		スズメノチャヒキ
215		ヤマアワ
216		ギョウギシバ
217		カモガヤ

表 9.2-6(4) 植物確認種

No.	科名	和名
218	〔イネ〕	メヒシバ
219		アキメヒシバ
220		イヌビエ
221		ヒメイヌビエ
222		ケイヌビエ
223		オヒシバ
224		シナダレスズメガヤ
225		ニワホコリ
226		コスズメガヤ
227		ナルコビエ
228		オニウシノケグサ
229		チガヤ
230		ネズミムギ
231		ホソムギ
232		アシボソ
233		オギ
234		ススキ
235		ケチヂミザサ
236		ヌカキビ
237		オオクサキビ
238		シマスズメノヒエ
239		キシユウスズメノヒエ
240		スズメノヒエ
241		タチスズメノヒエ
242		ヨシ
243		ツルヨシ
244		セイタカヨシ
245		アズマネザサ
246		イチゴツナギ
247		ヒエガエリ
248		アキノエノコログサ
249		キンエノコロ
250		エノコログサ
251		ムラサキエノコロ
252		カタバエノコロ
253		オオエノコロ
254		セイバンモロコシ
255		ヒメモロコシ
256		シバ
257	ヤシ	シュロ
258	ガマ	ヒメガマ
259	カヤツリグサ	スゲ属の一種
260		チャガヤツリ
261		ユメノシマガヤツリ
262		メリケンガヤツリ
263		コゴメガヤツリ
264		カヤツリグサ
265		ハマスゲ
計	74 科	265 種

(イ) 注目される植物種

確認された植物のうち、文化財保護法に基づく天然記念物、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律に基づく国内希少野生動植物種、「レッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト 植物Ⅰ（維管束植物）」（平成 24 年 8 月 環境省）の記載種及び「レッドデータブック東京 2013（本土部）」（平成 25 年 3 月 東京都）掲載種を注目すべき種として抽出した結果、表 9.2-7 に示す 4 種が該当した。

注目される植物種の生態及び確認状況は、表 9.2-8(1) 及び(2)に示すとおりである。

表 9.2-7 植生区分

No.	科名	種名	選定基準 ^{注)}			
			①	②	③	④
1	ヤナギ	シヤヤナギ				NT
2		オノエヤナギ				NT
3	ヒルムシロ	ツツイトモ			VU	
4	イネ	セイタカヨシ				DD
計	3 科	4 種			1 種	3 種

注) 選定基準

- ①文化財保護法（昭和 25 年法律第 214 号）、東京都文化財保護条例（昭和 51 年東京都条例第 25 号）に基づく天然記念物
- ②絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成 4 年法律第 75 号）に基づく国際希少野生動植物種
- ③「レッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト）」（平成 24 年 8 月 環境省）の記載種
VU:絶滅危惧Ⅱ類
- ④「レッドデータブック東京 2013（本土部）」（平成 25 年 3 月 東京都）の区部に該当する掲載種
NT:準絶滅危惧 DD:情報不足

表 9.2-8(1) 注目される植物の生態及び確認状況

【種 名】：ジャヤナギ 【分 布】：本州（関東以西）、四国、九州 【形 態】：落葉高木。花期は 3～4 月。湿地に多く生息する。 【確認状況】：夏季に、調査範囲内において、個体が確認された。	
【種 名】：オノエヤナギ 【分 布】：北海道、本州（奈良以北、佐渡）、四国 【形 態】：落葉高木。花期は 4 月中旬～5 月中旬。湿地などに生息する。 【確認状況】：夏季に、調査範囲内において個体が確認された。	

注) 分布及び形態は、「レッドデータブック東京 2013（本土部）」（平成 25 年 3 月 東京都）及び「レッドデータブック 2014－日本の絶滅のおそれのある野生生物－Ⅷ 植物Ⅰ（維管束植物）」（2015 年 3 月）による。

表 9.2-8(2) 注目される植物の生態及び確認状況

【種 名】：ツツイトモ 【分 布】：北海道、本州、四国、九州 【形 態】：池や流水中に生える多年草。 【確認状況】：夏季に、調査範囲内の仮設調整池において、個体が確認された。	
【種 名】：セイタカヨシ 【分 布】：北海道、本州、四国、九州 【形 態】：多年草。花期は8～10月。河川敷の湿地、海辺などに群生する。 【確認状況】：夏季に、調査範囲内において、個体が確認された。	

注) 分布及び形態は、「レッドデータブック東京 2013 (本土部)」(平成 25 年 3 月 東京都) 及び「レッドデータブック 2014－日本の絶滅のおそれのある野生生物－8 植物 I (維管束植物)」(2015 年 3 月) による。

(ウ) 植物群落

植生調査結果を基に計画地及びその周辺に分布する植物群落等を区分した結果、表 9.2-9 に示すとおりである。

調査地域は、木本群落が 9 区分、草本群落が 15 区分、人工構造物や開放水面等のその他区分が 5 区分、計 30 区分に分類された。

表 9.2-9 植生区分

凡例	植生区分		群落名
1	木本群落	自然林	エノキ群落
2			トウネズミモチ群落
3		植樹地	常緑針葉植樹林（クロマツ植林）
4			常緑広葉植樹林（タブノキ植林）
5			落葉広葉植樹林（オオシマザクラ植林）
6			その他の植樹地（高木植栽）
7			樹高が 3m 以上に成長した植樹地
8			樹高が 2m 以上に成長した植樹地
9			樹高が 2m 未満の植樹地
10	草本群落		エノコログサ-アキノエノコログサ群落
11			シロザ群落
12			オオアレチノギク-ヒメムカシヨモギ群落
13			ヨシ-オギ群落
14			オギ-セイタカアワダチソウ群落
15			ヒメガマ群落
16			セイバンモロコシ群落
17			シナダレスズメガヤ群落
18			ススキ群落
19			チガヤ群落
20			セイタカアワダチソウ-クズ群落
21			ギョウギシバ群落
22			キクイモ群落
23			オニウシノケグサ群落
24			シバ群落
25			アレチハナガサ群落
26	その他		造成裸地
27			工業用地・建物
28			舗装道路
29			開放水域
30			圃場

イ. 陸上動物の状況

(ア) 哺乳類

a. 確認種

現地調査により、計画地及びその周辺において表 9.2-10 に示すとおりである。夜間調査でヒナコウモリ科の飛翔が確認され、確認種数は1目1科1種であった。

表 9.2-10 哺乳類確認種

No.	目名	科名	種名	確認状況			
				平成 25 年度		平成 26 年度	
				秋季	冬季	春季	夏季
1	コウモリ	ヒナコウモリ	ヒナコウモリ			○	○
計	1 目	1 科	1 種	0 種	0 種	1 種	1 種

b. 注目される種

確認された哺乳類のうち、文化財保護法に基づく天然記念物、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律に基づく国内希少野生動植物種、「レッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト ほ乳類）」（平成 24 年 8 月 環境省）の記載種及び「レッドデータブック東京 2013（本土部）」（平成 25 年 3 月 東京都）に該当する掲載種はなかった。

(イ) 鳥類

a. 確認種

現地調査により、計画地及びその周辺において表 9.2-11 に示すとおり 11 目 30 科 46 種の鳥類が確認された。

確認された鳥類は、陸鳥ではシジュウカラ、メジロ、メボソムシクイ、キジバト等の樹林性の種やコチドリ、ヒバリ、ハクセキレイやセッカ等の草地性の種、カワウ、ウミネコ、イソシギ、コアジサシ、カモ類等の水辺に生息する種が確認された。

確認された種の多くは留鳥が占める構成となったが、夏鳥のイカルチドリ、コチドリ、コアジサシ、ツバメ等も確認された。

表 9.2-11 鳥類確認種

No.	目名	科名	種名	確認状況			
				平成 27 年度			
				春季	夏季	秋季	冬季
1	カモ	カモ	マガモ				○
2			カルガモ	○	○	○	○
3			ホシハジロ				○
4			スズガモ				○
5	カイツブリ	カイツブリ	カンムリカイツブリ				○
6	ハト	ハト	キジバト	○	○	○	○
7	カツオドリ	ウ	カワウ	○	○	○	○
8	ペリカン	サギ	アオサギ	○	○	○	
9	ツル	クイナ	オオバン				○
10	アマツバメ	アマツバメ	ヒメアマツバメ			○	
11	チドリ	チドリ	コチドリ	○	○		
12		シギ	イソシギ			○	
13		カモメ	ウミネコ		○	○	○
14			セグロカモメ				○
15			オオセグロカモメ				○
16			コアジサシ	○			○
17	タカ	ミサゴ	ミサゴ			○	○
18		タカ	トビ		○	○	○
19			ノスリ			○	○
20	ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ		○	○	
21			ハヤブサ			○	○
22	スズメ	モズ	モズ			○	○
23		サンショウクイ	サンショウクイ			○	
24		カラス	オナガ	○	○	○	○
25			ハシブトガラス	○	○	○	○
26			ハシボソガラス				○
27		シジュウカラ	シジュウカラ			○	○
28		ヒバリ	ヒバリ	○	○	○	○
29		ツバメ	ツバメ	○	○		
30		ヒヨドリ	ヒヨドリ			○	○
31		ウグイス	ウグイス				○
32		セッカ	セッカ		○		
33		メジロ	メジロ			○	○
34		ムシクイ	メボソムシクイ族の一種			○	
35		ムクドリ	ムクドリ	○	○	○	○
36		ヒタキ	シロハラ				○
37			ツグミ				○
38			ジョウビタキ				○
39			キビタキ			○	
40		スズメ	スズメ	○	○	○	○
41		セキレイ	ハクセキレイ	○	○	○	○
42			タヒバリ				○
43		アトリ	カワラヒワ	○	○	○	○
44		ホオジロ	ホオジロ				○
45			アオジ				○
46	ハト	ハト	カワラバト	○	○	○	
計	11 目	30 科	46 種	15 種	18 種	27 種	35 種

b. 注目される種

確認された鳥類のうち、文化財保護法に基づく天然記念物、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律に基づく国内希少野生動植物種、「レッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト 鳥類）」（平成 24 年 8 月 環境省）の記載種及び「レッドデータブック東京 2013（本土部）」（平成 25 年 3 月 東京都）に該当する掲載種を注目される鳥類として抽出した結果、表 9.2-12 に示す 12 種が該当した。

注目される鳥類の生態及び確認状況は、表 9.2-13(1) 及び(2) に示すとおりである。

表 9.2-12 注目される鳥類

No.	目名	科名	種名	選定基準 ^{注)}			
				①	②	③	④
1	アマツバメ	アマツバメ	ヒメアマツバメ				VU
2	チドリ	チドリ	コチドリ				VU
3		シギ	イソシギ				VU
4		カモメ	コアジサシ		国際	VU	EN
5	タカ	ミサゴ	ミサゴ			NT	EN
6		タカ	トビ				NT
7			ノスリ				EN
8	ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ				EN
9			ハヤブサ		国内	VU	EN
10	スズメ	サンショウクイ	サンショウクイ			VU	
11		モズ	モズ				VU
12		ヒバリ	ヒバリ				VU
計	5 目	10 科	12 種	0 種	2 種	4 種	11 種

注) 選定基準

- ①文化財保護法（昭和 25 年法律第 214 号）、東京都文化財保護条例（昭和 51 年東京都条例第 25 号）に基づく天然記念物
- ②絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成 4 年法律第 75 号）に基づく国際希少野生動植物種及び国内希少野生動植物種
- ③「レッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト 鳥類）」（平成 24 年 8 月 環境省）の記載種
VU: 絶滅危惧 II 類 NT: 準絶滅危惧
- ④「レッドデータブック東京 2013（本土部）」（平成 25 年 3 月 東京都）の区部に該当する掲載種
EN: 絶滅危惧 IB 類 VU: 絶滅危惧 II 類 NT: 準絶滅危惧 DD: 情報不足 *: 留意種

表 9.2-13(1) 注目される鳥類の生態及び確認状況

【種 名】：ヒメアマツバメ 【分 布】：本州（関東南部以西）、四国、九州で留鳥。 【形 態】：平地から低山地の開けた場所に生息する。コンクリートの建築物などで営巣する。イワツバメの巣を利用することが多い。飛翔昆虫類を食べる。 【確認状況】：秋季に、飛翔する個体が確認された。	 出典：「レッドデータブック東京 2013」
【種 名】：コチドリ 【分 布】：北海道、本州、四国、九州では夏鳥。南西諸島では冬鳥。 【形 態】：河川敷、海岸の砂洲、造成地などの草の少ない砂礫地で繁殖する。主に小型のカニや底生動物、昆虫類を食べる。 【確認状況】：春季及び夏季に、採餌、飛翔する個体が確認された。	 出典：「レッドデータブック東京 2013」
【種 名】：イソシギ 【分 布】：北海道、本州（東北部）では夏鳥。本州（東南部以南）、四国、九州では留鳥。南西諸島では冬鳥。 【形 態】：河川、湖沼、海岸、干潟などに生息する。海岸の砂洲や河川の中州などの草地で営巣する。昆虫類や甲殻類などを食べる。 【確認状況】：秋季に、採餌する個体が確認された。	 出典：「レッドデータブック東京 2013」
【種 名】：コアジサシ 【分 布】：本州、四国、九州、南西諸島で夏鳥。 【形 態】：河口、河川、湖沼などの河原や砂州などに生息する。海岸の砂洲や河川の中州などの裸地で営巣する。 【確認状況】：春季に、採餌、飛翔する個体が確認された。	 出典：「レッドデータブック東京 2013」
【種 名】：ミサゴ 【分 布】：北海道では夏鳥。本州では留鳥又は漂鳥。四国、九州で留鳥。南西諸島では冬鳥。 【形 態】：海岸付近や内陸の河川、湖沼に生息し、魚類を捕食する。 【確認状況】：秋季及び冬季に、上空を飛翔する個体が確認された。	 出典：「レッドデータブック東京 2013」
【種 名】：トビ 【分 布】：北海道、本州、四国、九州では留鳥または漂鳥。南西諸島では冬鳥。 【形 態】：海岸部や平地の河川・池沼に多いが、高山にも生息する。樹林で繁殖し、主に死肉を食べるが、ネズミ類、ヘビ類、カエル類などの小動物を食べることもある。 【確認状況】：夏季～冬季に、上空を飛翔する個体が確認された。	

注) 分布及び形態は、「レッドデータブック東京 2013（本土部）」（平成 25 年 3 月 東京都）による。

表 9.2-13(2) 注目される鳥類の生態及び確認状況

【種 名】：ノスリ 【分 布】：北海道、本州、四国では留鳥または漂鳥。九州では冬鳥。 【形 態】：山地の樹林で繁殖し、冬は広大な干拓地、河川敷、耕作地などで越冬する。主にネズミ類などの小動物を食べる。 【確認状況】：秋季及び冬季に、上空を飛翔する個体、樹木にとまる個体が確認された。	
【種 名】：チョウゲンボウ 【分 布】：北海道、本州（中部以南）では留鳥または漂鳥。本州（中部以西）、四国、九州、南西諸島では冬鳥。 【形 態】：平地から山地の崖のほか、橋脚や煙突などの人工建造物で繁殖する。ネズミ類や小鳥、昆虫類を食べる。 【確認状況】：夏季～秋季に、上空を飛翔する個体、樹木にとまる個体が確認された。	 出典：「レッドデータブック東京 2013」
【種 名】：ハヤブサ 【分 布】：北海道、本州、四国、九州では留鳥または漂鳥。南西諸島では冬鳥。 【形 態】：平地から山地の海岸、河口、河川、湖沼、耕作地などに生息し、一般に崖地の岩棚や横穴で繁殖する。主に飛んでいる鳥類を捕まえて食べる。 【確認状況】：秋季及び冬季に、上空を飛翔する個体が確認された。	 出典：「レッドデータブック東京 2013」
【種 名】：サンショウクイ 【分 布】：本州、四国、九州で夏鳥。 【形 態】：平地から山地の広葉樹林に生息し、昆虫類やクモ類を食べる。 【確認状況】：秋季に、樹木にとまる個体が確認された。	 出典：「レッドデータブック東京 2013」
【種 名】：モズ 【分 布】：北海道、本州、四国、九州では留鳥または漂鳥。南西諸島では冬鳥。 【形 態】：平地から山地の疎林、耕作地、河畔林、公園などに生息し、昆虫類やミミズ類、両生・爬虫類などを食べる。 【確認状況】：秋季及び冬季に、上空を飛翔する個体、樹木にとまる個体が確認された。	
【種 名】：ヒバリ 【分 布】：北海道では夏鳥。本州では留鳥または漂鳥。四国、九州では留鳥。 【形 態】：草地、耕作地などに生息し、植物の種子や昆虫類などを食べる。 【確認状況】：春季～冬季に、上空を囀り飛行している個体群が確認された。	

注)分布及び形態は、「レッドデータブック東京 2013（本土部）」（平成 25 年 3 月 東京都）による。

(ウ) は虫類

a. 確認種

現地調査により、計画地及びその周辺において表 9.2-14 に示すとおりである。明るい草地脇のコンクリート護岸上でニホンカナヘビが確認され、確認種数は1目1科1種であった。

表 9.2-14 は虫類確認種

No.	目名	科名	種名	確認状況				
				平成 25 年度		平成 26 年度		
				秋季	冬季	春季	初夏	夏季
1	有鱗	カナヘビ	ニホンカナヘビ			○	○	○
計	1 目	1 科	1 種	0 種	0 種	1 種	1 種	1 種

b. 注目される種

確認されたは虫類のうち、文化財保護法（昭和 25 年法律第 214 号）に基づく天然記念物、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成 4 年法律第 75 号）に基づく国内希少野生動植物種、「レッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト 爬虫類）」（平成 24 年 8 月 環境省）の記載種及び「レッドデータブック東京 2013（本土部）」（平成 25 年 3 月 東京都）の掲載種を抽出した結果、表 9.2-15 に示す 1 種が該当した。

注目されるは虫類の生態及び確認状況は、表 9.2-16 に示すとおりである。

表 9.2-15 注目されるは虫類

No.	目名	科名	種名	選定基準 ^{注)}			
				①	②	③	④
1	有鱗	カナヘビ	ニホンカナヘビ				VU
計	1 目	1 科	1 種	0 種	0 種	0 種	1 種

注) 選定基準

①文化財保護法（昭和 25 年法律第 214 号）、東京都文化財保護条例（昭和 51 年東京都条例第 25 号）に基づく天然記念物

②絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成 4 年法律第 75 号）に基づく国内希少野生動植物種

③「レッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト 爬虫類）」（平成 24 年 8 月 環境省）の記載種

④「レッドデータブック東京 2013（本土部）」（平成 25 年 3 月 東京都）の区部に該当する掲載種

VU: 絶滅危惧 II 類

表 9.2-16 注目されるは虫類の生態及び確認状況

【種名】	ニホンカナヘビ	
【分布】	北海道、本州、四国、九州	
【形態】	ニホントカゲに比べずっと細身で尾は長く全長の 3 分の 2 強。体色は背面が褐色、腹面は白または黄色。体側に白と暗褐色の縞がはしる。背面の鱗にはうね（キール）があり、ザラザラした感じ。幼体の体色は全体に暗く、特に尾部は顕著。昼行性でクモ類や昆虫類、ダンゴムシなど陸生甲殻類などを食べる肉食性。尾は自切する。	
【確認状況】	春季及び初夏に調査範囲の道路と草地の境界で、成体が多数確認された。	

注) 分布及び形態は、「レッドデータブック東京 2013（本土部）」（平成 25 年 3 月 東京都）による。

(エ) 両生類

a. 確認種

現地調査により、両生類は確認されなかった。

b. 注目される種

現地調査により、両生類の注目される種は確認されなかった。

(オ) 昆虫類

a. 確認種

現地調査により、計画地及びその周辺において表 9.2-17(1)～(10)に示すとおり 16 目 185 科 674 種の昆虫類が確認された。

草樹林では、樹木の幹でクマゼミやツクツクボウシ等、枝葉では静止しているカネタタキやアオバハゴロモ、スズキクサカゲロウ、ヒレルクチブトゾウムシ等が確認された。林床では、ヒゲジロハサミムシやツチカメムシ、マルガタツヤヒラタゴミムシ等が確認された。

湿性草地では、チョウセンカマキリやテラウチウンカ、ヤマトヒメメダカカッコウムシ、シナホソカトリバエ等の昆虫類が確認された。また、乾性草地の葉上では、ショウリョウバッタやクモヘリカメムシ、ヨモギハムシ、イネクキイエバエ、シロオビノメイガ等が確認された。その他、飛翔するシオカラトンボ等のトンボ類やイチモンジセセリ等のチョウ類が確認された。

表 9.2-17(1) 昆虫類確認種

No.	目名	科名	種名	確認状況		
				平成 25 年度		
				春季	夏季	秋季
1	トビムシ	ムラサキトビムシ	ムラサキトビムシ科			○
2		ツチトビムシ	ツチトビムシ科	○		○
3		アヤトビムシ	Entomobrya 属	○	○	○
4			アヤトビムシ科			○
5		マルトビムシ	マルトビムシ科			○
6	カゲロウ	コカゲロウ	コカゲロウ科	○		
7	トンボ	イトトンボ	ムスシイトトンボ	○		
8			アジイトトンボ		○	
9			アオモンイトトンボ	○	○	
10		ヤンマ	キンヤンマ	○	○	
11		トンボ	ショウジョウトンボ	○	○	
12			シオカラトンボ	○	○	
13			ウスバキトンボ		○	
14			チョウトンボ		○	
15			アキアカネ			○
16	カマキリ	カマキリ	ハラビロカマキリ		○	○
17			チョウセンカマキリ		○	○
18			オオカマキリ	○	○	○
19	シロアリ	ミヅカシラシロアリ	ヤマトシロアリ			○
20	ハゲタ	ケラ	ケラ		○	
21		コオロギ	ハラオカメコオロギ			○
22			シハース			○
23			エンマコオロギ		○	○
24			Teleogryllus 属		○	
25			ツツレサセコオロギ			○
26			コオロギ科		○	○
27		ヒバリモトギ	ウスダモス		○	○
28		マツムシ	アオマツムシ		○	
29		カネタタキ	カネタタキ			○
30			Ornebius 属		○	
31		アリツカコオロギ	Myrmecophilus 属	○		
32			アリツカコオロギ科			○
33		カンタン	Oecanthus 属		○	
34		ネリギリス	セシヅムシ			○
35			サトクダマキモトギ		○	
36			ツユムシ			○
37			ツユムシ亜科	○	○	
38			Eobiana 属	○		
39			ホシササキ			○
40			Conocephalus 属	○	○	
41			クビネリギリス			○
42		オンブハゲタ	オンブハゲタ		○	○
43		ハゲタ	ショクリョウハゲタ	○	○	○
44			マダラハゲタ		○	
45			トノサマハゲタ		○	○
46			クルマハゲタモトギ		○	○
47			イホハゲタ		○	○
48			ハゲタ科	○	○	
49		ヒシハゲタ	ニセハネカヒシハゲタ	○		
50			ハラヒシハゲタ	○	○	
51			ヒシハゲタ科			○
52		ノミハゲタ	ノミハゲタ	○	○	
53	ハサミムシ	ハサミムシ	ハマバハサミムシ	○	○	○
54			キアシハサミムシ	○	○	○
55			ヒゲジロハサミムシ	○	○	○
56			ハサミムシ科		○	
57		オオハサミムシ	オオハサミムシ	○	○	○
58		クギスキハサミムシ	コフハサミムシ			○
59			ヨーロッパクギスキハサミムシ	○		
60	チャタテムシ	ケチャタテ	Caecilius 属	○		
61			ケチャタテ科			○
62		チャタテ	クロミヤケチャタテ		○	
63	アザミウマ	アザミウマ	アザミウマ科			○
64		クダアザミウマ	クダアザミウマ科	○	○	○
65	カメムシ	ヒシウンカ	Kuvera 属		○	
66			ヒシウンカ	○	○	
67		ウンカ	テラウチウンカ	○	○	
68			タケウンカ		○	
69			コブウンカ		○	
70			タテヤマヨシウンカ	○	○	
71			サメシマウンカ			○
72			ヒメトビウンカ		○	
73			マツヤマチビウンカ			○
74			セシロウンカ			○

表 9.2-17(2) 昆虫類確認種

No.	目名	科名	種名	確認状況		
				平成 25 年度		
				春季	夏季	秋季
75	〔カメムシ〕	〔ウンカ〕	ウンカ科		○	○
76		クンハ イウンカ	ミト リク シハ イウンカ		○	○
77			ヒラタクンハ イウンカ		○	
78		アオハ ハコ ロモ	アオハ ハコ ロモ		○	
79			トビ イロハコ ロモ		○	○
80		ハコ ロモ	ベ ッコウハコ ロモ		○	
81		ゼミ	クマゼミ		○	
82			アブ ラゼミ		○	
83			ツクツクホ ウシ		○	
84			ミンミンゼミ		○	
85			ニニイゼミ		○	
86		アヲアキムシ	マヅアヲアキ		○	
87			ハマハ アヲアキ		○	○
88		ヨコハ イ	Batrachomorphus 属		○	○
89			Drabescus 属	○	○	○
90			ホシサシ ヨコハ イ		○	
91			クロス シホソサシ ヨコハ イ		○	
92			Pagaronia 属		○	○
93			オオヨコハ イ	○		
94			オビ ヒメヨコハ イ	○	○	○
95			カンキツ ヒメヨコハ イ			○
96			ヨモキ ヒメヨコハ イ		○	○
97			ホシ ヒメヨコハ イ	○		
98			ヒメヨコハ イ亜科		○	○
99			アカシ シサシ ヨコハ イ	○	○	○
100			カスリ ヨコハ イ			○
101			アカカスリ ヨコハ イ	○		○
102			イネマダ ラヨコハ イ			○
103			キシミト リコハ ネヨコハ イ	○		○
104			Exitianus 属		○	
105			フタスシ トカ リヨコハ イ		○	○
106			ミト リヒロヨコハ イ	○	○	
107			マダ ラヨコハ イ		○	
108			ヨコハ イ亜科		○	○
109			ヨコハ イ科	○	○	○
110		キシ ラミ	イタト リマダ ラキシ ラミ		○	○
111			グ ミキシ ラミ			○
112			Psylla 属	○		
113			Triozia 属			○
114			キシ ラミ科		○	
115		アブ ラムシ	Cinara 属	○		
116			アブ ラムシ科			○
117		ミス カメムシ	ヘリク ロミス カメムシ	○	○	○
118		イトアメンボ	ヒメイトアメンボ		○	
119		カタヒ ロアメンボ	Microvelia 属		○	
120		アメンボ	ヒメアメンボ		○	
121		ミス キ ワカメムシ	ミス キ ワカメムシ	○		
122		ミス ムシ	アサヒナミス ムシ	○		
123			エサキミス ムシ	○		
124			Sigara 属		○	
125			Micronecta 属		○	
126		マヅモムシ	マヅモムシ		○	
127			コマヅモムシ		○	○
128		マルミス ムシ	マルミス ムシ		○	○
129		カスミカメムシ	Apolygus 属		○	
130			ヨツボ シカスミカメ	○	○	○
131			Lygocoris 属		○	
132			アカシ シカスミカメ		○	○
133			イネボツミト リカスミカメ	○	○	○
134			テンサイカスミカメ	○	○	○
135			Campylomma 属	○		○
136			シラケ ヨモキ カスミカメ		○	○
137			カスミカメムシ科	○		
138		マキハ サシガメ	ハネナガ マキハ サシガメ	○		○
139		ハナカメムシ	コヒメハナカメムシ		○	○
140			ツキヒメハナカメムシ	○		
141			ケブ カヒメハナカメムシ	○	○	○
142			ハナカメムシ科		○	○
143		クンハ イムシ	ウチワクンハ イ	○		
144			アワダ チソウクンハ イ			○
145			ヘクソカズ ラクンハ イ	○	○	○
146			タフ クンハ イ		○	
147		サシガメ	トビ イロサシガメ		○	○
148			Oncocephalus 属	○		

表 9.2-17(3) 昆虫類確認種

No.	目名	科名	種名	確認状況		
				平成 25 年度		
				春季	夏季	秋季
149	[カメムシ]	[サシカメ]	ヒ ^ロ ウト ^ン サシカメ		○	○
150			アカシマサシカメ	○	○	
151			クロモンサシカメ	○		○
152						○
153		イトカメムシ	ヒメイトカメムシ			○
154			ヒメナカ ^ノ カメムシ			○
155			ウスイロヒメヒラタナカ ^ノ カメムシ	○	○	○
156			コハ ^ノ ネナカ ^ノ カメムシ	○	○	
157			ヒメオオメナカ ^ノ カメムシ	○	○	○
158			オオメナカ ^ノ カメムシ	○	○	○
159			タイワンチビ ^ノ ナカ ^ノ カメムシ			○
160			ヨツボ ^ノ シヒョウタンナカ ^ノ カメムシ		○	
161			オオモンシロナカ ^ノ カメムシ		○	○
162			サビ ^ノ ヒョウタンナカ ^ノ カメムシ		○	○
163			キベ ^ノ リヒョウタンナカ ^ノ カメムシ	○		○
164			クロアシホソナカ ^ノ カメムシ			○
165			イチコ ^ノ チビ ^ノ ナカ ^ノ カメムシ	○	○	○
166			ナカ ^ノ カメムシ科	○		
167		ホシカメムシ	フタモンホシカメムシ		○	○
168			オオホシカメムシ	○	○	
169		ホソヘリカメムシ	クモヘリカメムシ			○
170			ホソヘリカメムシ		○	○
171		ヘリカメムシ	ヒメトゲ ^ノ ヘリカメムシ	○	○	○
172			ホオズ ^ノ キカメムシ		○	
173			ホソハリカメムシ			○
174			ホシハラビ ^ノ ヘリカメムシ	○	○	○
175			ツマキヘリカメムシ	○	○	○
176			ミナミトゲ ^ノ ヘリカメムシ	○	○	○
177			ヘリカメムシ科			○
178		ヒメヘリカメムシ	スカシヒメヘリカメムシ			○
179			アカヒメヘリカメムシ		○	○
180		マルカメムシ	フ ^ノ チビヘリカメムシ		○	○
181			マルカメムシ	○	○	○
182		ヅチカメムシ	マルヅチカメムシ	○	○	○
183			ヒメヅチカメムシ	○		○
184			ヅチカメムシ		○	○
185			ミツボ ^ノ シヅチカメムシ	○	○	○
186		カメムシ	ウス ^ノ ラカメムシ	○		
187			ウシカメムシ	○	○	
188			フ ^ノ チビケ ^ノ カメムシ			○
189			ナカ ^ノ メ		○	○
190			シラホシカメムシ		○	
191			ツヤアオカメムシ	○	○	○
192			クサキ ^ノ カメムシ			○
193			イチモンシ ^ノ カメムシ			○
194			チャハ ^ノ ネアオカメムシ	○	○	○
195			シロヘリクチフ ^ノ トカメムシ	○		○
196			カメムシ科		○	○
197		アミメカゲ ^ノ ロウ	エビ ^ノ イロカメムシ		○	○
198			コナカゲ ^ノ ロウ		○	
199			ヒメカゲ ^ノ ロウ	○		
200			キントキクサカゲ ^ノ ロウ	○		
201			クモンクサカゲ ^ノ ロウ	○		
202			ヨツボ ^ノ シクサカゲ ^ノ ロウ	○		○
203			ヤマトクサカゲ ^ノ ロウ		○	
204			スズ ^ノ キクサカゲ ^ノ ロウ	○	○	○
205			イツホシアカマタ ^ノ ラクサカゲ ^ノ ロウ		○	○
206			アミメクサカゲ ^ノ ロウ		○	
207			クサカゲ ^ノ ロウ科		○	○
208	コウチュウ	ハンミョウ	エリザ ^ノ ハンミョウ	○	○	○
209			エゾ ^ノ カタビ ^ノ ロオサムシ		○	
210		オサムシ	アトモンミス ^ノ キ ^ノ ワコ ^ノ ミムシ	○		
211			キイロマルコムス ^ノ キ ^ノ ワコ ^ノ ミムシ	○		
212			Paratachys 属	○	○	○
213			ヨツモンコムス ^ノ キ ^ノ ワコ ^ノ ミムシ		○	
214			トククリナカ ^ノ コ ^ノ ミムシ		○	
215			コカ ^ノ シラナカ ^ノ コ ^ノ ミムシ			○
216			アシミゾ ^ノ ナカ ^ノ コ ^ノ ミムシ	○		○
217			セアカヒラタコ ^ノ ミムシ	○		
218			オオヒラタコ ^ノ ミムシ	○		○
219			マルカ ^ノ タツヤヒラタコ ^ノ ミムシ	○	○	
220			マルカ ^ノ タコ ^ノ ミムシ	○		○
221			コアオマルカ ^ノ タコ ^ノ ミムシ	○		

表 9.2-17(4) 昆虫類確認種

No.	目名	科名	種名	確認状況		
				平成 25 年度		
				春季	夏季	秋季
222	〔コウチュウ〕	〔オサムシ〕	ナカマルカクダシ			○
223			ヒメツヤマルカクダシ	○		○
224			コシムシ	○		
225			オオスズメバネ	○		○
226			ケウスバ		○	○
227			ウスアサギ	○	○	○
228			Bradycellus 属	○	○	○
229			ミトマメ			○
230			ツヤメ	○	○	
231			イトハシ		○	
232			コアトワ	○		
233			オオアト		○	
234			キボ		○	
235			トゲ	○		
236		ゲンコ	シマゲ		○	
237			チャイロ		○	
238			ホソセ	○	○	
239			ヒメ			○
240		カシ	ハイロ	○	○	
241			キイロ	○	○	○
242			コカ		○	○
243			ヒメカ		○	
244		タマシ	トゲ			○
245			Agathidium 属		○	
246			ヨツボ		○	
247			ヨツボ		○	
248	ハネカクシ	ハネカクシ	ヨツボ			○
249			Anotylus 属	○		
250			Carpelimus 属			○
251			ヒメ		○	
252			Stenus 属		○	
253			キアシ	○		
254			オオシ	○		
255			クロ	○		
256			フチ		○	○
257			アホ		○	
258			Othius 属	○	○	○
259			Neobisnius 属			○
260			キン	○		
261			Philonthus 属			○
262			Sepedophilus 属	○	○	○
263			クロ			○
264			Aleochara 属			○
265			Falagria 属		○	
266			ヒゲ			○
267			ハネカクシ科	○		
268	マルハナミ	マルハナミ	トビ	○	○	
269			オオ		○	
270			カミ		○	
271			マル		○	
272			コイ		○	
273			アオ	○		
274			ト		○	○
275			マメ		○	
276			コ		○	
277			シ	○	○	○
278	タマシ	タマシ	タテ		○	
279			ヒメ	○		
280			クロ			○
281	コメツキ	コメツキ	マダ	○	○	
282			サビ	○	○	○
283			ハマ	○	○	○
284			ヒメ	○	○	○
285			スナ		○	
286			Melanotus 属		○	
287			Migiwa 属	○		
288			コ	○	○	
289			ミカ	○	○	
290			チャイロ	○	○	○
291	シハ	シハ	オオ		○	
292			ヤマト		○	
293	ケシ	ケシ	クロ	○	○	
294			Epuraea 属	○	○	

表 9.2-17(5) 昆虫類確認種

No.	目名	科名	種名	確認状況		
				平成 25 年度		
				春季	夏季	秋季
295	〔コウチュウ〕	〔ケシキスイ〕	マルキマタ ^ラ ケシキスイ			○
296			キイロアシナガ ^{ヒメ} ハナムシ	○	○	○
297			Olibrus 属		○	○
298			Stilbus 属		○	
299		ホソヒラタムシ	アタマホソヒラタムシ		○	○
300			ホホビ ^ロ ホソヒラタムシ		○	○
301			ミツカト ^{ホソ} ヒラタムシ			○
302			ミツモンセマルヒラタムシ		○	
303		キシムシ	ウスバ ^キ スイ	○	○	○
304			クロモンキスイ	○		
305			Atomaria 属	○		
306			マルカ ^タ キスイ	○		○
307		コメツキモト ^キ	ケナカ ^{マル} キスイ		○	○
308		ミジ ^ン ムシ	ナカク ^{ロミジ} ンムシ		○	
309			ムクケ ^{ミシ} ンムシ		○	
310			アカマルミジ ^ン ムシ			○
311		テントウムシ ^タ マシ	ヨツボ ^シ テントウ ^タ マシ		○	
312		テントウムシ	クロウヤテントウ	○	○	
313			ムツボ ^シ テントウ	○	○	○
314			フタホシテントウ	○		
315			セスジ ^{ヒメ} テントウ	○		
316			ハレヤヒメテントウ	○	○	○
317			ハ ^ハ ヒメテントウ		○	○
318			クロヘリヒメテントウ		○	
319			カク ^ヤ ヒメテントウ			○
320			カワムラヒメテントウ	○		
321			コクロヒメテントウ			○
322			キアシクロヒメテントウ	○	○	○
323			ミスジ ^{キイロ} テントウ	○		○
324			ヒメアカホシテントウ		○	○
325			アカイロテントウ		○	○
326			ムーア ^{シロ} ホシテントウ		○	
327			ナナホシテントウ			○
328			ナミテントウ	○	○	○
329			キイロテントウ	○	○	○
330			タ ^ン ダ ^ラ テントウ	○	○	○
331			ヒメカメノコテントウ			○
332			クモカ ^タ テントウ		○	○
333			ニジ ^{ユウヤ} ホシテントウ		○	
334			Epilachna 属	○		
335			テントウムシ科	○	○	
336		ヒメマキムシ	ウスケシマキムシ			○
337			ウスチャケシマキムシ		○	○
338			ヤマトケシマキムシ			○
339		ハナノミ	Falsomordellistena 属		○	○
340			Mordellistena 属		○	
341		アリモト ^キ	ケオビ ^{アリ} モト ^キ	○	○	
342			ヒゲ ^フ トホソアリモト ^キ	○	○	○
343			ヨツボ ^シ ホソアリモト ^キ		○	
344		ニセクビ ^ホ ソムシ	ヤマトニセクビ ^ホ ソムシ	○	○	○
345			Syzeton 属	○	○	○
346		コ ^ミ ムシ ^タ マシ	コスナコ ^ミ ムシ ^タ マシ		○	
347			エグ ^リ コ ^ミ ムシ ^タ マシ	○		○
348		カミキリムシ	ハイイロヤハス ^{カミ} キリ	○	○	
349			ワモンサビ ^{カミ} キリ			○
350		ハムシ	キハ ^{ラルリ} クビ ^ホ ソハムシ			○
351			トホシクビ ^ホ ソハムシ	○	○	
352			アオハ ^{ネサル} ハムシ	○		
353			ヒメアラケ ^{サル} ハムシ		○	
354			マルキハ ^{ネサル} ハムシ	○		
355			ト ^ウ カ ^{ネサル} ハムシ	○	○	
356			ヨモキ ^{ハム} シ	○	○	○
357			コガ ^{タルリ} ハムシ	○	○	○
358			ヤナキ ^{ルリ} ハムシ	○		
359			クロウリハムシ	○		○
360			フ ^タ クサハムシ	○	○	○
361			ニレハムシ		○	
362			エノキハムシ	○	○	○
363			ヒザコ ^ト ヒ ^{ハム} シ		○	
364			クロホ ^シ トヒ ^{ハム} シ		○	○
365			オオハ ^コ トヒ ^{ハム} シ		○	○
366			ヨモキ ^ト ヒ ^{ハム} シ	○	○	
367			オスナガ ^{スネト} ヒ ^{ハム} シ		○	○

表 9.2-17(6) 昆虫類確認種

No.	目名	科名	種名	確認状況		
				平成 25 年度		
				春季	夏季	秋季
368	コウチュウ	ハムシ	ナトビ [○] ハムシ	○		
369			クロトク [○] ハムシ		○	○
370			カメノコハムシ	○	○	○
371			ヒメカメノコハムシ		○	○
372		ヒケ [○] ナカ [○] ゾ [○] ウムシ	Rhaphitropis 属	○		
373		オトシブ [○] ミ	クロケシツブ [○] チョッキリ	○		
374			チャイロチョッキリ		○	
375			ク [○] ミチョッキリ	○		
376		ホソクチゾ [○] ウムシ	クワ [○] カホソクチゾ [○] ウムシ	○		
377			シロモンチビ [○] ゾ [○] ウムシ			○
378		ゾ [○] ウムシ	チビ [○] メナカ [○] ゾ [○] ウムシ			○
379			チビ [○] ヒョウタンゾ [○] ウムシ		○	
380			ヒレルクチブ [○] トゾ [○] ウムシ		○	
381			スグ [○] リゾ [○] ウムシ		○	○
382			トビ [○] イロヒョウタンゾ [○] ウムシ	○	○	
383			コフキゾ [○] ウムシ	○	○	○
384			ケチビ [○] コフキゾ [○] ウムシ	○	○	○
385			チビ [○] コフキゾ [○] ウムシ	○	○	○
386			Sitona 属	○		○
387			ツメタサコゾ [○] ウムシ			○
388			アルファルフタコゾ [○] ウムシ	○		
389			オオタコゾ [○] ウムシ	○		○
390			ヤサイズ [○] ウムシ		○	
391			アイノカウオゾ [○] ウムシ		○	○
392			ツメタサタネコハ [○] ンゾ [○] ウムシ	○		
393			エノキノミゾ [○] ウムシ	○		
394			カシワノミゾ [○] ウムシ	○		
395			ニレノミゾ [○] ウムシ	○	○	○
396			アカアシノミゾ [○] ウムシ	○		
397			クワヒメゾ [○] ウムシ	○		
398			マダ [○] ラヒメゾ [○] ウムシ	○		
399			アカアシクチブ [○] トサルゾ [○] ウムシ	○	○	
400			タデ [○] ノクチブ [○] トサルゾ [○] ウムシ		○	
401			ダ [○] イコンサルゾ [○] ウムシ	○	○	○
402			クチカクシゾ [○] ウムシ亜科	○		
403			チャバ [○] ネキクイズ [○] ウムシ	○		
404			ゾ [○] ウムシ科			○
405		オサゾ [○] ウムシ	シバ [○] オサゾ [○] ウムシ	○	○	
406		キクイムシ	キクイムシ科			○
407	ハチ	ミフシハバ [○] チ	ニレチュウレンシ [○]	○		
408		ハバ [○] チ	セク [○] ロカ [○] ラハバ [○] チ	○		
409			Takeuchiella 属	○		○
410			ハバ [○] チ科			○
411		コマユバ [○] チ	ツヤコマユバ [○] チ亜科	○		
412			ハエヤト [○] リコマユバ [○] チ亜科	○		
413			Chelonius 属	○		
414			サムライコマユバ [○] チ亜科	○		
415			フチカ [○] シラコマユバ [○] チ亜科	○	○	○
416			タテスジ [○] コマユバ [○] チ亜科		○	○
417			コマユバ [○] チ科			○
418		ヒメハ [○] チ	ヒラタヒメハ [○] チ亜科	○	○	○
419			チビ [○] アメハ [○] チ亜科	○	○	○
420			キバ [○] ラアメハ [○] チ亜科		○	○
421			Ophion 属			○
422			メンカ [○] タヒメハ [○] チ亜科			○
423			Ichneumon 属			○
424			ヒメハ [○] チ亜科			○
425			ヒメハ [○] チ科		○	○
426		ハエヤト [○] リクロハ [○] チ	ハエヤト [○] リクロハ [○] チ科	○	○	○
427		タマコ [○] クロハ [○] チ	タマコ [○] クロハ [○] チ科		○	○
428		アシブ [○] トコハ [○] チ	コロウト [○] アシブ [○] トコハ [○] チ	○	○	○
429			チビ [○] アシブ [○] トコハ [○] チ			○
430			キアシブ [○] トコハ [○] チ			○
431			イシイツキアシブ [○] トコハ [○] チ		○	○
432			オニアシブ [○] トコハ [○] チ		○	
433			カタビ [○] ロコハ [○] チ			○
434		オナカ [○] コハ [○] チ	オナカ [○] コハ [○] チ科	○	○	
435		コカ [○] ネコハ [○] チ	コカ [○] ネコハ [○] チ科		○	
436		ナカ [○] コハ [○] チ	ナカ [○] コハ [○] チ科	○	○	○
437		トビ [○] コハ [○] チ	トビ [○] コハ [○] チ科	○	○	
438		ヒメコハ [○] チ	ヒメコハ [○] チ科	○	○	○
439		ホソハネコハ [○] チ	ホソハネコハ [○] チ科			○
440		タマハ [○] チ	タマハ [○] チ科			○

表 9.2-17(7) 昆虫類確認種

No.	目名	科名	種名	確認状況		
				平成 25 年度		
				春季	夏季	秋季
441	ハチ	セイホウ	クロハセホウ本土亜種			○
442		カマハチ	カカハチ		○	
443		アリカタハチ	Epyris 属			○
444		コツチハチ	Tiphia 属		○	
445		ツチハチ	キオヒツチハチ	○		○
446			ヒメハラナカツチハチ	○	○	
447			オオハラナカツチハチ	○	○	○
448		アリ	オオハリアリ			○
449			ハリフトリリアゲアリ	○	○	○
450			ムネホソアリ	○	○	○
451			アミアリ	○	○	○
452			トビイロシリアリ	○	○	○
453			ルリアリ	○	○	○
454			イトウオアリ		○	
455			ウメマツオアリ		○	
456			クロヤマアリ	○	○	○
457			クサアリモトキ	○	○	○
458			トビイロクアリ	○	○	○
459			クワガタメイロアリ	○	○	○
460			アメイロアリ		○	○
461			サクラアリ	○	○	○
462			アリ科			○
463		ヘッコーハチ	Anoplius 属		○	○
464			オオシロフヘッコー		○	
465			Arachnospila 亜属		○	
466		トローハチ	オオフタヒトローハチ本土亜種		○	
467			キボシトクリハチ		○	
468			ミカトトクリハチ		○	
469			キアシトクリハチ		○	
470			ミカトトローハチ本土亜種	○		
471			スズハチ		○	○
472			カタケロチヒトローハチ		○	
473			ムナケロチヒトローハチ本土亜種		○	
474		スズメハチ	フタモンアシナハチ		○	
475			コアシナハチ	○		
476			コガタスズメハチ本土亜種		○	
477			クロスズメハチ		○	
478		アナハチ	アメリカシナハチ		○	
479			クロアナハチ		○	
480			サトシナハチ		○	
481			アジシロコハチイハチ	○	○	○
482			Mimumesa 属		○	○
483			キアシマエタテハチ	○		
484			ヒメイスカハチ	○		
485			Pemphredon 属		○	
486			ヒメコロキハチ	○		
487			ナミコロキハチ		○	○
488			マルモンツチスカリ	○		
489		ムカシハナハチ	Colletes 属		○	
490			Hylaeus 属			○
491		コハナハチ	アカネコハナハチ	○	○	
492			Lasioglossum 属	○	○	○
493		ヒメハナハチ	Andrena 属	○	○	○
494		コシフトハナハチ	タミョウキタラハナハチ	○		
495			Nomada 属	○		
496			シロシビケナハチ	○		
497			キオヒツヤハナハチ	○		
498			トゲアシツヤハナハチ	○		
499			クマハチ	○		
500	ハエ	カクンボ	キイロホリカクンボ	○	○	
501			Nephrotoma 属	○		
502			Styringomyia 属	○		
503			ヒメカクンボ亜科		○	
504		チョウハエ	チョウハエ科			○
505		カ	Aedes 属		○	○
506			Culex 属		○	○
507		ヌカカ	ヌカカ科			○
508		ユスリカ	Cricotopus 属	○	○	○
509			エリユスリカ亜科	○		○
510			Chironomus 属	○	○	○
511			Polypedilum 属		○	
512			ユスリカ亜科	○	○	
513			ユスリカ科	○	○	

表 9.2-17(8) 昆虫類確認種

No.	目名	科名	種名	確認状況		
				平成 25 年度		
				春季	夏季	秋季
514	〔ハエ〕	タマハ [°] エ	タマハ [°] エ科	○	○	○
515		キノコハ [°] エ	キノコハ [°] エ科		○	○
516		クロハ [°] ネキ/コハ [°] エ	クロハ [°] ネキ/コハ [°] エ科	○	○	○
517		ツリアフ [°]	クロハ [°] ネツリアフ [°]	○	○	○
518		ムシヒキアフ [°]	アオメアフ [°]		○	
519			マカ [°] リケムシヒキ		○	
520			Tolmerus 属	○	○	
521			ムシヒキアフ [°] 科		○	
522		オト [°] リハ [°] エ	Platypalpus 属	○		
523			オト [°] リハ [°] エ科	○		
524		アシナカ [°] ハ [°] エ	Amblypsilopus 属	○		
525			Dolichopus 属		○	
526			アシナカ [°] ハ [°] エ科	○	○	○
527		ノミハ [°] エ	ノミハ [°] エ科	○	○	○
528		アタマアフ [°]	Dorylomorpha 属		○	○
529		ハナアフ [°]	クロヒラタアフ [°]		○	○
530			ホソヒラタアフ [°]	○		
531			フタホシヒラタアフ [°]	○	○	○
532			ナミホシヒラタアフ [°]	○		
533			ミナミホシヒラタアフ [°]	○		○
534			ホソヒメヒラタアフ [°]	○		
535			ケヒラタアフ [°]	○	○	○
536			キイロナミホシヒラタアフ [°]	○		
537			Melanostoma 属	○		
538			キアシマヒラタアフ [°]	○		○
539			シママヒラタアフ [°]	○	○	○
540			キコ [°] シハナアフ [°]	○	○	○
541			シマハナアフ [°]			○
542			ハナアフ [°]			○
543			アシア [°] トハナアフ [°]			○
544			オオハナアフ [°]			○
545			ナミドリイロハナカ [°] ハナアフ [°]			○
546		ハネオレハ [°] エ	Loxocera 属	○		
547		ミハ [°] エ	ミスジ [°] ミハ [°] エ	○		
548			ヨモキ [°] マルフシミハ [°] エ		○	○
549			ヒラヤマミメカフ [°] カミハ [°] エ	○		○
550			オオセンタ [°] シク [°] サケフ [°] カミハ [°] エ		○	
551			ノゲ [°] シカフ [°] カミハ [°] エ			○
552			センタ [°] シク [°] サケフ [°] カミハ [°] エ	○		○
553		ヤチハ [°] エ	ヒゲ [°] ナカ [°] ヤチハ [°] エ			○
554		ベ [°] ツコウハ [°] エ	ベ [°] ツコウハ [°] エ		○	○
555		ツヤホソハ [°] エ	ヒトデシツヤホソハ [°] エ			○
556			オスアカツヤホソハ [°] エ	○		○
557			ツヤホソハ [°] エ科	○		
558		シマハ [°] エ	Homoneura 属			○
559			Luzonomyza forficula	○	○	○
560			Sapromyza 属			○
561			Sciasminettia dichetophora		○	
562		アフ [°] ラコハ [°] エ	アフ [°] ラコハ [°] エ科			○
563		クロツヤハ [°] エ	クロツヤハ [°] エ科	○	○	○
564		ハモク [°] リハ [°] エ	ハモク [°] リハ [°] エ科	○	○	
565		キモク [°] リハ [°] エ	ナカ [°] ミヤクキモク [°] リハ [°] エ亜科	○		○
566			Chlorops 属	○	○	○
567			Formosina cincta	○	○	○
568			キモク [°] リハ [°] エ亜科		○	
569		ミギ [°] リハ [°] エ	Brachydeutera ibari	○	○	○
570			Hecamede granihera		○	○
571			Hyadina pulchella		○	
572			Notiphila 属			○
573			Ochthera circularis	○		
574			Parydra (Chaetoapnaea) albipulvis			○
575			Philygria 属	○		
576			クロツヤミギ [°] リハ [°] エ			○
577			Scatella 属	○		○
578			Setacera 属	○	○	○
579			ミギ [°] リハ [°] エ科		○	
580		ショウシ [°] ヨウハ [°] エ	ツノコ [°] ネショウシ [°] ヨウハ [°] エ		○	○
581			Drosophila 属			○
582			Mycodrosophila 属	○	○	○
583		フンコハ [°] エ	Crumomyia 属	○		
584			フンコハ [°] エ科			○
585		フンハ [°] エ	ヒメフンハ [°] エ		○	○
586		ハナハ [°] エ	タネハ [°] エ			○

表 9.2-17(9) 昆虫類確認種

No.	目名	科名	種名	確認状況		
				平成 25 年度		
				春季	夏季	秋季
587	〔ハエ〕	〔ハナハエ〕	ハナハエ科	○		○
588			Fannia 属	○		○
589			モモク ロオイエハエ		○	
590			Syngamoptera 属			○
591			イネクイエハエ		○	
592			Helina 属	○	○	○
593			Phaonia 属	○		○
594			セマク ライエハエ	○		○
595			シナホソトリハエ			○
596			Caricea 属	○	○	○
597			コシアキハナレメイハエ	○		○
598			Coenosia 属	○		○
599			ハリク ロハナレメイハエ	○	○	○
600			シリモチハナレメイハエ	○	○	○
601			Pygophora 属	○	○	○
602		クロハエ	トウキョウキンハエ		○	
603			ミヤマキンハエ	○		
604			ミドリキンハエ		○	
605			ツマク ロキンハエ	○		
606		ニクハエ	クロニクハエ	○	○	○
607			ツシマニクハエ			○
608			ナミクハエ			○
609			ミセラニクハエ	○		○
610			コニクハエ			○
611			ニクハエ科		○	
612		ヤト リハエ	Euthera tuckeri	○		○
613			ヤト リハエ科	○		
614	トビケラ	ヒメトビケラ	ヒメトビケラ科	○	○	○
615	チョウ	ハマキカ	チャハマキ		○	
616			Olethreutes 属			○
617			アシブ トヒメハマキ		○	
618			Rhopobota 属		○	
619			ハマキカ 科	○		
620		ヒロス コカ	マダ ラマルヒロス コカ		○	○
621		キハ カ	キハ カ 科	○		
622		キハ カ 上科			○	○
623		マダ ラカ	タケノボソクロハ			○
624		メイカ	ツトカ 亜科	○		
625			アヤナミノメイカ		○	
626			シロオビ ノメイカ		○	
627			マエアスカシノメイカ		○	○
628			ウスベニトカ リメイカ	○		○
629			Endotricha 属	○		
630			メイカ 科		○	
631		セリチョウ	キンイチモンシ セリ		○	○
632			イチモンシ セリ		○	
633			チャバ ネセリ	○	○	○
634			キマダ ラセリ		○	○
635			セリチョウ科		○	
636		アゲ ハチョウ	アオス アゲ ハ		○	
637			クロアゲ ハ本土亜種	○	○	○
638			ナミアゲ ハ	○		
639		シロチョウ	モンキチョウ	○		
640			キチョウ	○	○	○
641		シ シチョウ	モンシロチョウ	○	○	○
642			ルリシシ ミ	○	○	○
643			ツバ メシシ ミ		○	
644			ウラナシシ ミ		○	
645			ベニシシ ミ			○
646			ムラサキツバメ		○	○
647			ヤマトシシ ミ本土亜種		○	
648		ウラキ シシシ ミチョウ	ウラキ シシシ ミ	○	○	○
649		タテハチョウ	ヒメアカタテハ		○	
650			コ マダ ラチョウ	○	○	○
651			キタテハ	○		
652			アカタテハ			○
653		ジャクカ	カキ ハ アオジャク		○	
654			エグ リツ マエダ ジャク	○		
655			ウスキツハ メダ ジャク	○		
656			ジャクカ 科			○
657		スス メカ	ホシホウシ ヤク		○	
658		ジャチホコカ	モンクロジャチホコ			○
659		ヒトリカ	ヒトリカ 科		○	

表 9.2-17(10) 昆虫類確認種

No.	目名	科名	種名	確認状況		
				平成 25 年度		
				春季	夏季	秋季
660	[チョウ]	ヤガ	ツメサガ		○	
661			ウスチャヤガ	○		
662			Mythimna 属			○
663			カラスヨトリ亜科	○		
664			フサヤガ	○		
665			ヒメネジ ^{ロコヤガ}		○	
666			ウリキンウリバ		○	
667			タマナキ ^{ンウリバ}			○
668			イチシ ^{クキンウリバ}	○		
669			キンウリバ ^{亜科}			○
670			シロス ^{アツバ}		○	
671			アカエグ ^{リハ}		○	
672			ソトウスカ ^{ロアツバ}			○
673			ヤガ ^科	○		
674			チョウ目	○	○	
計	16 目	185 科	674 種	318 種	403 種	363 種

b. 注目される種

確認された昆虫類のうち、文化財保護法に基づく天然記念物、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律に基づく国内希少野生動植物種、「レッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト 昆虫類）」（平成 24 年 8 月 環境省）の記載種及び「レッドデータブック東京 2013（本土部）」（平成 25 年 3 月 東京都に該当する掲載種）を注目される昆虫類として抽出した結果、表 9.2-18 に示す 9 種が該当した。

注目される昆虫類の生態及び確認状況は、表 9.2-19(1)及び(2)に示すとおりである。

表 9.2-18 注目される昆虫類

No	目名	科名	種名	選定基準 ^{注)}			
				①	②	③	④
1	トンボ	トンボ	チョウトンボ				NT
2	コウチュウ	ハシヨウ	エリザハシヨウ				VU
3		オサムシ	コアトリアオコサムシ				VU
4		カミシ	コカミシ			DD	EN
5			ヒメカミシ				VU
6		ハネカシ	キンボシハネカシ				VU
7		カミキリ	ハイロヤハスカミキリ				EN
8	ハチ	トロボチ	キボシトックリハチ				DD
9	チョウ	セセリチョウ	キンイロモンシセセリ			NT	
計	4 目	8 科	9 種	0 種	0 種	2 種	8 種

注)選定基準

- ①文化財保護法（昭和 25 年法律第 214 号）、東京都文化財保護条例（昭和 51 年東京都条例第 25 号）に基づく天然記念物
- ②絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成 4 年法律第 75 号）に基づく国内希少野生動植物種
- ③「レッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト 昆虫類）」（平成 24 年 8 月 環境省）の記載種
NT:準絶滅危惧 DD:情報不足
- ④「レッドデータブック東京 2013（本土部）」（平成 25 年 3 月 東京都）の区部に該当する掲載種
EN:絶滅危惧 I B 類 VU:絶滅危惧 II 類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足

表 9.2-19(1) 注目される昆虫類の生態及び確認状況

【種 名】：チョウトンボ[*] 【分 布】：本州、四国、九州 【形 態】：体は黒色で大きな翅を持つ。翅の黒色部の表側は雄では紫藍色、雌では金緑色に輝くが、雌でも金緑色となる個体が時折ある。初夏から夏に見られる。平地から丘陵地の水生植物が豊富な池沼に生息する。 【確認状況】：夏季に、調査範囲の高茎草地、樹林に囲まれた池内及び飛翔している個体が確認された。	 出典：「レッドデータブック東京 2013」
【種 名】：エリザハンミョウ 【分 布】：北海道、本州、四国、九州 【形 態】：小型のハンミョウで、上翅に3条の白帯を持つ。成虫は夏を中心に出現し、幼虫で越冬する。河原などの水たまりの周辺など、やや湿った砂地を好む。 【確認状況】：夏季に、調査範囲の盛り土脇の湿った砂地やその付近において、個体が確認された。	
【種 名】：コアトワアオゴミムシ 【分 布】：本州、四国、九州、南西諸島 【形 態】：頭部と前胸は強い緑銅光沢、上翅は鈍い緑銅光沢を持ち、翅端に曲玉状の黄紋を持つ。アトワアオゴミムシに似ているが、翅端の紋がより広く外縁と接すること、前胸側縁の丸みが弱く、両側が顕著に黄色く縁取られていることにより区別できる。灯火に飛来する。河川周辺で見られることが多い。草地性と思われる。 【確認状況】：夏季に、調査範囲西側に位置する低茎草本が生育している小山上部において、個体が確認された。	
【種 名】：コガムシ 【分 布】：北海道、本州、四国、九州 【形 態】：背面は黒色で鈍い光沢がある。小あごひげと脚は赤褐色。平地から丘陵地の池沼や湿地、水田などに生息する。区部から多摩地域の池沼や湿地、水田に生息する。 【確認状況】：夏季に、調査範囲西側に位置するコンクリート護岸の池内において、個体が確認された。	
【種 名】：ヒメガムシ 【分 布】：本州、四国、九州、南西諸島 【形 態】：背面は黒色で鈍い光沢がある。コガムシに似るが明らかに小型で体型もやや細い。平地から丘陵地の池沼や湿地、水田などに生息する。区部から多摩地域の池沼や湿地、水田に生息する。 【確認状況】：秋季に、調査範囲西側に位置するコンクリート護岸の池内において、個体が確認された。	
【種 名】：キンボシハネカクシ 【分 布】：北海道、本州、四国、九州、対馬 【形 態】：黒色で頭部、上翅、腹部第5～6節背板には密に金色毛を持つ。前胸背板は点刻を密布するが、正中線には細く不明瞭な平滑帯が認められる。平地から低山地の里山的な地域の開けた環境の地表に生息する。区部での現存する産地は赤坂御用地と皇居に限られる。 【確認状況】：秋季に、調査範囲の南側に位置する作業道脇の樹林に囲まれ、落葉が堆積している草本の根際において、個体が確認された。	

注) 分布及び形態は、「レッドデータブック東京 2013 (本土部)」(平成 25 年 3 月 東京都)による。

表 9.2-19(2) 注目される昆虫類の生態及び確認状況

【種 名】：ハイイロヤハズカミキリ 【分 布】：本州、四国、九州、南西諸島 【形 態】：触角は細く、雄で上翅端を越えるが、雌は届かない。前胸は丸みを帯び、側部は岩石群状、背面は縦瘤状にゴツゴツとしている。状翅端は矢舌状。新成虫は枯れた稗内にとどまって冬を越し、翌春から夏に出現するが、一般に姿を見る機会は少ない。平地から山地に分布しネザサ類に依存する。 【確認状況】：秋季に、調査範囲の作業道脇のネザサ類の刈り跡で、放置されたネザサ類の茎や葉が堆積した下において、個体が確認された。	
【種 名】：キボシトックリバチ 【分 布】：本州、四国、九州、対馬 【形 態】：黒色で黄白色の微毛に覆われ、光沢は鈍い。腹部第2腹背板両側に黄紋があり、脚は基部を除き大部分は黄褐色。泥土で徳利に似た形の巣を作り、その中に幼虫の食餌であるオオウンモンクチバなどの幼虫を麻痺させて入れる。河川敷などの環境に生息していると考えられる。 【確認状況】：夏季に、調査範囲の外周道路沿いのヨシやオギ、セイタカアワダチソウ等の高茎草地上空を飛翔している個体が確認された。	
【種 名】：ギンイチモンジセセリ 【分 布】：北海道、本州、四国、九州 【形 態】：平地から山地の乾性草地や河川堤防や農地周辺の草地、採草地、山地の稜線沿いの草原に生息する。 【確認状況】：夏季に、調査範囲の作業道沿いのオギやヨシの刈り跡を飛翔している個体が確認された。	

注) 分布及び形態は、「レッドデータブック東京 2013 (本土部)」(平成 25 年 3 月 東京都) による。

(カ) クモ類

a. 確認種

現地調査により、計画地及びその周辺において表 9.2-20 に示すとおり 1 目 19 科 117 種のクモ類が確認された。

樹木では、枝葉を徘徊しているアリグモ等、枝間に造網しているジョロウグモやオニグモ等、林床の倒木下や落葉下に潜んでいるコタナグモやデーニツツサラグモ等、林床を徘徊しているコツブウラシマグモ等が確認された。

湿性草地では、葉上を徘徊しているヤハズハエトリや草間に造網しているトガリアシナガグモやコガネグモダマシ等が確認された。乾性草地では、葉上を徘徊しているシロスジグモやチクニハエトリ等、草間に造網しているナガコガネグモやドヨウオニグモ等多くのクモ類が確認された。

裸地では、石やゴミ等がみられ、石やゴミの下に潜んでいるマルムネヒザグモやノコギリヒザグモ等や地表を徘徊しているウツキコモリグモが確認された。

表 9.2-20 クモ類確認種

No.	目名	科名	種数	主な確認種
1	クモ	ユウレイグモ	1	ユウレイグモ
2		ヒメグモ	16	アシブトヒメグモ、ムナホシヒメグモ、シロカネイソウグモ、カクヤヒメグモ等
3		サラクモ	11	ノコギリヒサグモ、マルムネヒサグモ、ハラシロムナキグモ、デーニツツサラグモ等
4		アシナガグモ	7	チュウカダシロカネグモ、ウロコアシナガグモ、トガリアシナガグモ、アシナガグモ等
5		ジョロウグモ	1	ジョロウグモ
6		コガネグモ	13	トヨウオニグモ、オニグモ、サツマノミダマシ、ナガコガネグモ等
7		コモリグモ	7	ウツキコモリグモ、イモコモリグモ、ハラクロコモリグモ、キクヅキコモリグモ等
8		キシタグモ	1	イオウイロハシリグモ
9		ササグモ	1	Oxyopes 属
10		シボグモ	1	シボグモ
11		タナグモ	4	クサグモ、コクサグモ等
12		ハグモ	1	コタナグモ
13		ツチフクログモ	2	アシナガコマチグモ等
14		フクログモ	4	マダラフクログモ、ヒメフクログモ、カキフクログモ等
15		ネコグモ	6	コツブウラシマグモ、オトヒメグモ、イナズマウラシマグモ、オビシカハチグモ等
16		リシグモ	3	ヨツボシリシグモ、ヒゲナガツヤグモ等
17		エビグモ	3	ヨシヤコグモ等
18		カニグモ	10	ハナグモ、アスチグモ、シロスジグモ、セマルトラフカニグモ等
19		ハエトリグモ	25	チクニハエトリ、クワダアリグモ、シラホシコグモ、チャハエトリ、ネコハエトリ等
計	1 目	19 科	117 種	

b. 注目される種

確認されたクモ類のうち、文化財保護法に基づく天然記念物、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律に基づく国内希少野生動植物種、「レッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト その他無脊椎動物）」（平成 24 年 8 月 環境省）の記載種及び「レッドデータブック東京 2013（本土部）」（平成 25 年 3 月 東京都）に該当する掲載種を注目されるクモ類として抽出した結果、表 9.2-21 に示す 1 種が該当した。

注目されるクモ類の生態及び確認状況は、表 9.2-22 に示すとおりである。

表 9.2-21 注目されるクモ類

No	目名	科名	種名	選定基準 ^{注)}			
				①	②	③	④
1	クモ	カニグモ	ヨコフカニグモ				NT
計	1 目	1 科	1 種	0 種	0 種	0 種	1 種

注)選定基準

- ①文化財保護法（昭和 25 年法律第 214 号）、東京都文化財保護条例（昭和 51 年東京都条例第 25 号）に基づく天然記念物
 ②絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成 4 年法律第 75 号）に基づく国内希少野生動植物種
 ③「レッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト 昆虫類）」（平成 24 年 8 月 環境省）の記載種
 ④「レッドデータブック東京 2013（本土部）」（平成 25 年 3 月 東京都）の区部に該当する掲載種

NT：準絶滅危惧

表 9.2-22 注目されるクモ類の生態及び確認状況

【種 名】：ヨコフカニグモ 【分 布】：北海道、本州、九州 【形 態】：平地から低山地の湿原、河川敷、公園の芝生など比較的丈の低い草原に生息する。 【確認状況】：夏季及び秋季に、調査範囲の樹林に囲まれた作業道脇のイネ科やオオバコ等の低茎草地の根際や周辺区の作業道沿いのオギ等の刈り跡の枯草下、植栽地脇のイネ科等の刈り跡の枯草下及び地の根際において、個体が確認された。	
---	---

注)分布及び形態は、「レッドデータブック東京 2013（本土部）」（平成 25 年 3 月 東京都）による。

2) 生育・生息環境

ア. 地形等の状況

地形の状況は、「9.1 生物の生育・生息基盤 9.1.1 現況調査 (4)調査結果 2)地形・地質の状況」(p.28参照)に示したとおりである。

計画地及びその周辺は、埋立てによる人工地盤の区域となっている。計画地の地盤面は、T.P.+2.5m～T.P.+34.5m程度の台地状な地形である。

地質の状況は、「9.1 生物の生育・生息基盤 9.1.1 現況調査 (4)調査結果 2)地形・地質の状況」(p.28参照)に示したとおりである。計画地及びその周辺の地質は、下位より、第四紀更新世中期の江戸川層、その上位に東京層が堆積し、表層付近には有楽町層が分布する。その上位を埋立層が覆っている。

イ. 植生等の状況

既存資料による計画地及びその周辺の現存植生の状況は、「9.1 生物の生育・生息基盤 9.1.1 現況調査 (4)調査結果 5)植生の状況」(p.29参照)に示すとおりである。計画地及びその周辺の現存植生は、主に「川辺一年生草本群落」、「工場地帯」、「残存・植栽樹群をもった公園、墓地等」、「造成地」等となっている。

現地調査による計画地及びその周辺の現存植生の状況は、図 9.1-8 (p.37 参照)に示すとおりである。計画地は、中央防波堤内側埋立地の海の森公園(仮称)内であり、植生の状況は、落葉広葉樹(エノキ、オオシマザクラ等)、常緑広葉樹(スダジイ、クスノキ、タブノキ、マテバシイ等)、常緑針葉樹(クロマツ)が植栽されている。また、計画地中央部には造成裸地のほか、エノコログサ-アキノエノコログサ群落、オオアレチノギク-ヒメムカシヨモギ群落等の草本群落が見られる。

ウ. 大気環境

計画地周辺の大気汚染常時監視測定局等における平成27年度の二酸化窒素、二酸化硫黄、一酸化炭素、浮遊粒子状物質、光化学オキシダント、微小粒子状物質、ダイオキシン類及び空間線量率の測定結果は、表 9.2-23～28 に示すとおりである。

二酸化窒素の日平均値の年間98%値は、一般局で0.044ppm～0.054ppm、自排局で0.051ppmであり、全地点において環境基準を満足していた。

二酸化硫黄の日平均値の2%除外値は、一般局で0.007ppm～0.008ppmであり、環境基準を満足していた。

一酸化炭素の日平均値の2%除外値は、自排局で0.6ppmであり、環境基準を達成していた。

浮遊粒子状物質の日平均値の年間2%除外値は、一般局で0.051mg/m³～0.067mg/m³、自排局で0.051mg/m³であり、環境基準を満足していた。

光化学オキシダントの昼間の1時間値の最高値は、一般局で0.138ppm～0.156ppmであり、環境基準を満足していなかった。

微小粒子状物質の年平均値は、一般局で13.4μg/m³～15.4μg/m³、自排局で15.3μg/m³、日平均値の年間98%値は、一般局で32.4μg/m³～36.3μg/m³、自排局で34.6μg/m³であり、港区台場測定局は環境基準を満足していたが、その他の測定局は満足していなかった。

気象の状況は、「9.1 生物の生育・生息基盤 9.1.1 現況調査 (4)調査結果 6)気象の状況」(p.38参照)に示したとおりである。計画地周辺の東京管区気象台における年間降水量及び年平均気温の平年値(昭和56年～平成22年)は、1,528.8mm、15.4℃である。

表 9.2-23 大気汚染常時監視測定局測定結果(二酸化窒素)

区 分	地点番号	測定局名	年平均値 (ppm)	日平均値の 年間 98% 値 (ppm)	環境基準 達成状況	環境基準
一般環境 大気測定局	No. 1	中央区晴海 測定局	0.023	0.044	○	1 時間値の 1 日 平 均 値 が 0.04ppm から 0.06ppm までの ゾーン内又は それ以下であ ること。
	No. 2	港区台場測定局	0.024	0.045	○	
	No. 3	江東区豊洲 測定局	0.024	0.045	○	
	No. 4	大田区京浜島 測定局	0.029	0.054	○	
自動車排出 ガス測定局	No. 5	三ツ目通り辰巳 測定局	0.028	0.051	○	

注 1) 測定値は、No. 4 が平成 26 年度、その他は平成 27 年度の結果である。

2) 環境基準の達成状況は、長期的評価による。(○：達成)

3) 地点番号は、図 9.2-2 (p. 49 参照) に対応する。

出典：「大気汚染結果ダウンロード」(平成 28 年 9 月 16 日参照 東京都環境局ホームページ)

https://www.kankyo.metro.tokyo.jp/air/air_pollution/result_measurement.html

「平成 26 年度版大田区の環境調査報告書」(平成 28 年 1 月 大田区環境清掃部環境・地球温暖化対策課)

「大気汚染常時測定」(平成 28 年 9 月 16 日参照 江東区ホームページ)

<https://www.city.koto.lg.jp/seikatsu/kankyo/7289/17862.html>

表 9.2-24 大気汚染常時監視測定局測定結果(二酸化硫黄)

区 分	地点番号	測定局名	年平均値 (ppm)	日平均値の 2%除外値 (ppm)	環境基準 達成状況	環境基準
一般環境 大気測定局	No. 1	中央区晴海 測定局	0.003	0.007	○	1 時間値の 1 日 平 均 値 が 0.04ppm 以下で あり、かつ、1 時 間 値 が 0.1ppm 以下で あること。
	No. 2	港区台場測定局	0.003	0.008	○	
	No. 3	江東区豊洲 測定局	—	—	—	
	No. 4	大田区京浜島 測定局	0.003	0.008	○	
自動車排出 ガス測定局	No. 5	三ツ目通り辰巳 測定局	—	—	—	

注 1) 測定値は、No. 4 が平成 26 年度、その他は平成 27 年度の結果である。

2) 環境基準の達成状況は、長期的評価による。(○：達成)

3) 地点番号は、図 9.2-2 (p. 49 参照) に対応する。

出典：「大気汚染結果ダウンロード」(平成 28 年 9 月 16 日参照 東京都環境局ホームページ)

https://www.kankyo.metro.tokyo.jp/air/air_pollution/result_measurement.html

「平成 26 年度版大田区の環境調査報告書」(平成 28 年 1 月 大田区環境清掃部環境・地球温暖化対策課)

「大気汚染常時測定」(平成 28 年 9 月 16 日参照 江東区ホームページ)

<https://www.city.koto.lg.jp/seikatsu/kankyo/7289/17862.html>

表 9.2-25 大気汚染常時監視測定局測定結果(一酸化炭素)

区 分	地点番号	測定局名	年平均値 (ppm)	日平均値の 2%除外値 (ppm)	環境基準 達成状況	環境基準
一般環境 大気測定局	No. 1	中央区晴海 測定局	—	—	—	1 時間値の 1 日 平均値が 10ppm 以下であり、かつ、1 時間値の 8 時間平均値が 20ppm 以下であ ること。
	No. 2	港区台場測定局	—	—	—	
	No. 3	江東区豊洲 測定局	—	—	—	
	No. 4	大田区京浜島 測定局	—	—	—	
自動車排出 ガス測定局	No. 5	三ツ目通り辰巳 測定局	0.3	0.6	○	

注 1) 測定値は、No. 4 が平成 26 年度、その他は平成 27 年度の結果である。

2) 環境基準の達成状況は、長期的評価による。(○：達成)

3) 地点番号は、図 9.2-2 (p. 49 参照) に対応する。

出典：「大気汚染結果ダウンロード」(平成 28 年 9 月 16 日参照 東京都環境局ホームページ)

https://www.kankyo.metro.tokyo.jp/air/air_pollution/result_measurement.html

「平成 26 年度版大田区の環境調査報告書」(平成 28 年 1 月 大田区環境清掃部環境・地球温暖化対策課)

「大気汚染常時測定」(平成 28 年 9 月 16 日参照 江東区ホームページ)

<https://www.city.koto.lg.jp/seikatsu/kankyo/7289/17862.html>

表 9.2-26 大気汚染常時監視測定局測定結果(浮遊粒子状物質)

区 分	地点番号	測定局名	年平均値 (mg/m ³)	日平均値の 2%除外値 (mg/m ³)	環境基準 達成状況	環境基準
一般環境 大気測定局	No. 1	中央区晴海 測定局	0.021	0.053	○	1 時間値の 1 日 平均値が 0.10mg/m ³ 以下 であり、かつ、 1 時間値が 0.20mg/m ³ 以下 であること。
	No. 2	港区台場測定局	0.021	0.051	○	
	No. 3	江東区豊洲 測定局	0.021	0.051	○	
	No. 4	大田区京浜島 測定局	0.023	0.067	○	
自動車排出 ガス測定局	No. 5	三ツ目通り辰巳 測定局	0.020	0.051	○	

注 1) 測定値は、No. 4 が平成 26 年度、その他は平成 27 年度の結果である。

2) 環境基準の達成状況は、長期的評価による。(○：達成)

3) 地点番号は、図 9.2-2 (p. 49 参照) に対応する。

出典：「大気汚染結果ダウンロード」(平成 28 年 9 月 16 日参照 東京都環境局ホームページ)

https://www.kankyo.metro.tokyo.jp/air/air_pollution/result_measurement.html

「平成 26 年度版大田区の環境調査報告書」(平成 28 年 1 月 大田区環境清掃部環境・地球温暖化対策課)

「大気汚染常時測定」(平成 28 年 9 月 16 日参照 江東区ホームページ)

<https://www.city.koto.lg.jp/seikatsu/kankyo/7289/17862.html>

表 9.2-27 大気汚染常時監視測定局測定結果(光化学オキシダント)

区 分	地点番号	測定局名	年平均値 (ppm)	昼間の1時間 値の最高値 (ppm)	環境基準 達成状況	環境基準
一般環境 大気測定局	No. 1	中央区晴海 測定局	0.028	0.156	×	1 時 間 値 が 0.06ppm 以下で あること。
	No. 2	港区台場測定局	0.024	0.151	×	
	No. 3	江東区豊洲 測定局	—	—	—	
	No. 4	大田区京浜島 測定局	0.025	0.138	×	
自動車排出 ガス測定局	No. 5	三ツ目通り辰巳 測定局	—	—	—	

注 1) 測定値は、No. 4 が平成 26 年度、その他は平成 27 年度の結果である。

2) 環境基準の達成状況は、短期的評価による。(×：非達成)

3) 地点番号は、図 9.2-2 (p.49 参照) に対応する

出典：「大気汚染結果ダウンロード」(平成 28 年 9 月 16 日参照 東京都環境局ホームページ)

https://www.kankyo.metro.tokyo.jp/air/air_pollution/result_measurement.html

「平成 26 年度版大田区の環境調査報告書」(平成 28 年 1 月 大田区環境清掃部環境・地球温暖化対策課)

「大気汚染常時測定」(平成 28 年 9 月 16 日参照 江東区ホームページ)

<https://www.city.koto.lg.jp/seikatsu/kankyo/7289/17862.html>

表 9.2-28 大気汚染常時監視測定局測定結果(PM2.5)

区 分	地点番号	測定局名	年平均値 ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	日平均値の 年間 98% 値 ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	環境基準 達成状況	環境基準
一般環境 大気測定局	No. 1	中央区晴海 測定局	15.4	36.3	×	1 年平均値が $15\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下 であり、かつ、 1 日平均値が $35\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下 であること。
	No. 2	港区台場測定局	13.4	32.4	○	
	No. 3	江東区豊洲 測定局	—	—	—	
	No. 4	大田区京浜島 測定局	—	—	—	
自動車排出 ガス測定局	No. 5	三ツ目通り辰巳 測定局	15.3	34.6	×	

注 1) 測定値は、No. 4 が平成 26 年度、その他は平成 27 年度の結果である。

2) 環境基準の達成状況は、長期的評価による。(×：非達成)

3) 地点番号は、図 9.2-2 (p.49 参照) に対応する。

出典：「大気汚染結果ダウンロード」(平成 28 年 9 月 16 日参照 東京都環境局ホームページ)

https://www.kankyo.metro.tokyo.jp/air/air_pollution/result_measurement.html

「平成 26 年度版大田区の環境調査報告書」(平成 28 年 1 月 大田区環境清掃部環境・地球温暖化対策課)

「大気汚染常時測定」(平成 28 年 9 月 16 日参照 江東区ホームページ)

<https://www.city.koto.lg.jp/seikatsu/kankyo/7289/17862.html>

エ. 地域社会とのつながり

計画地周辺には、東京港を挟んで北側に位置する暁ふ頭公園やフェリーふ頭公園には「残存・植栽樹群をもった公園、墓地等」が分布し、都市部に整備された緑地が広がり、散歩、バーベキューや休息等の市民利用がある。また、暁ふ頭公園は東京港に隣接しており、公園の海沿いでは釣りが楽しめる等、都市部の開放的な水辺空間を身近に感じることのできる場となっている。

「海の森公園（仮称）」は海の森（仮称）構想（平成 17 年 2 月東京都港湾審議会答申）を踏まえ、スタジイ、タブノキ、エノキ等約 24 万本の植樹を苗木づくりから植樹までを都民等との協働による取組で進めてきており、新たな動植物の生育・生息環境が創出されている。

3) 生態系の状況

動植物の現地調査結果を基に、計画地及びその周辺における生態系の機能や構成要素、食物連鎖による生態系構成要素は、表 9.2-29 に示すとおりである。

計画地及びその周辺は、生産者である植生の状況から生態系の機能として、樹林環境、草地環境、市街地等の 3 区分に分類される。これらの環境区分で主に見られる陸上植物、陸上動物について、食物連鎖による生物の相互の関係を整理し、図 9.2-3 に整理した。

生産者としては、樹林環境ではクロマツ、スダジイ、タブノキ等の植栽樹や、トベラ、ムクノキ、エノキ等の実生が見られ、草地環境ではセイタカアワダチソウ、ドクダミ、ヘクソカズラ、ツユクサ、スギナ等の草本群落、市街地等ではアレチギシギシ、ククイモ、ヒメムカシヨモギ、イヌムギ等の空地雑草があげられる。

生産者である植物の葉や茎、果実、種子等を採食する下位消費者としては、バッタ目、コウチュウ目、ハエ目、チョウ目等の昆虫類、キジバト等の植食性鳥類があげられる。

下位消費者である昆虫類等を捕食する中位消費者としては、ヒナコウモリ科の哺乳類、コゲラ、オナガ、アカハラ、ジョウビタキ、ヒバリ、セッカ、ツバメ等の鳥類があげられる。

下位から中位消費者を捕食する上位消費者としては、小型哺乳類や昆虫類等を捕食するモズ等の鳥類、雑食性のハシブトガラス等があげられる。

食物連鎖の最も上位に位置する最上位消費者としては、行動圏が広く小型鳥類や昆虫類を捕食するチョウゲンボウ及びノスリ、肉食性のミサゴ等の猛禽類があげられる。

表 9.2-29 環境区分別に見る生態系の状況

環境区分		樹林環境	草地環境	市街地等
共通する環境要素		計画地及びその周辺は、平成8年に竣工した中央防波堤内側埋立地に位置しており、土地利用は、図9.1-9に示すとおり、計画地西側に供給処理施設、官公庁施設、専用工場、倉庫・運輸関係施設が存在し、計画地は海の森公園（仮称）の一部となっている。地盤面がT.P. +2.5m～T.P. +34.5m程度の台地状な地形である。 計画地及びその周辺の地質は、下位より、第四紀更新世中期の江戸川層、その上位に東京層が堆積し、表層付近には有楽町層が分布する。その上位を埋立層が覆っている。		
環境区分別の状況		樹林環境は、計画地内ではクロマツ、スダジイ、タブノキ等の植栽樹や、実生由来のトベラ、ムクノキ、エノキ等の樹木が見られる。 主な動物相は樹林環境に依存するオナガ、アカハラ、ジョウビタキ等の鳥類、アブラゼミ等のセミ目のほか、サビキコリ、グミチョッキリ等のコウチュウ目が生息する。	草地環境は、計画地の大部分をセイタカアワダチソウ群落が占有し、ドクダミ、ヘクソカズラ、ツユクサ、スギナ等が生育している。 主な動物相は、草地環境に依存するヒバリ、イソヒヨドリ、セッカ等の鳥類のほか、ショウリョウバッタ等のバッタ類のほか、ネコハエトリ等のクモ類が生息する。	計画地及びその周辺は、造成地、植樹地、園路、道路、海沿いの資材置き場や風力発電施設等により形成されている。 市街地は主に造成裸地で占められているが、アレチギシギシ、キクイモ、ヒメムカシヨモギ、イヌムギ等の空地雑草が見られる。 主な動物相は、ヒナコウモリ科の哺乳類、チョウ類やトンボ類等の昆虫やハシブトガラス、スズメ等の鳥類の利用が見られる。
生態系構成要素	最上位消費者	鳥 類：ノスリ、ミサゴ	鳥 類：チョウゲンボウ	鳥 類：トビ
	上位消費者	鳥 類：モズ	鳥 類：モズ、ハシブトガラス	鳥 類：ハシブトガラス
	中位消費者	哺乳類：ヒナコウモリ科 鳥 類：オナガ、アカハラ、ジョウビタキ 等 クモ類：オニグモ、マダラフクログモ 等	哺乳類：ヒナコウモリ科 鳥 類：ヒバリ、イソヒヨドリ、セッカ 等 は虫類：ニホンカナヘビ クモ類：ネコハエトリ 等	哺乳類：ヒナコウモリ科 鳥 類：ツバメ、スズメ 等 は虫類：ニホンカナヘビ クモ類：ノコギリヒザクモ 等
	下位消費者	鳥 類：キジバト 等 昆虫類：キンボシハネカクシ、アブラゼミ、サビキコリ、グミチョッキリ 等	鳥 類：キジバト 等 昆虫類：ショウリョウバッタ、チョウトンボ、コアトワアオゴミムシ、ハイイロヤハズカミキリ、キボシトックリバチ、ギンイチモンジセセリ 等	昆虫類：エリザハンミョウ、コガムシ 等
	生産者	植 物：クロマツ、スダジイ、タブノキ、ジャヤナギ、オノエヤナギ、セイタカヨシ 等	植 物：セイタカアワダチソウ、ドクダミ、ヘクソカズラ、ツユクサ、スギナ 等	植 物：アレチギシギシ、ヒメムカシヨモギ、キクイモ、イヌムギ 等

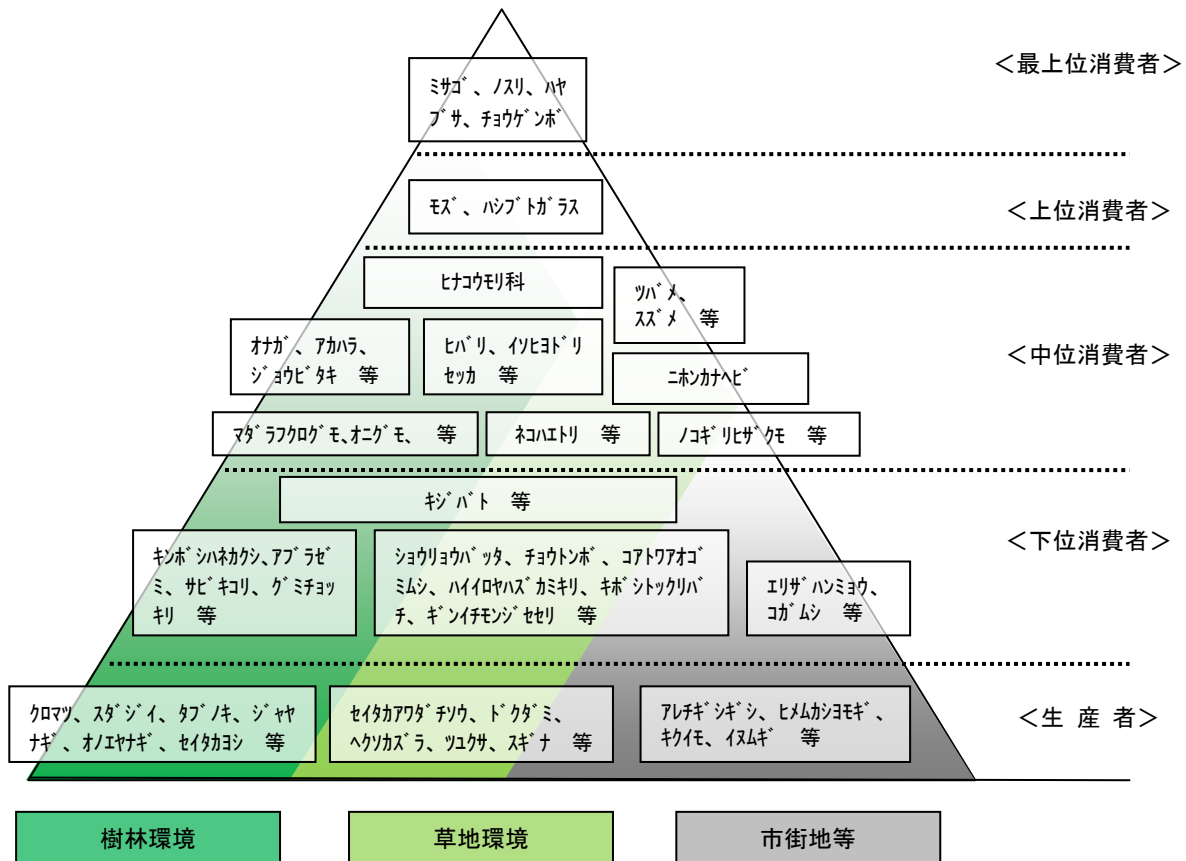


図 9.2-3 食物連鎖に注視した生物相の階層構造（陸域）

4) 土地利用の状況

土地利用の状況は、「9.1 土壌 9.1.1 現況調査 (4) 調査結果 7) 土地利用の状況」(p. 38 参照) に示したとおりである。

計画地及びその周辺の土地利用は、供給処理施設、官公庁施設、屋外利用地・仮設建物となっている。計画地西側に供給処理施設、官公庁施設、専用工場、倉庫・運輸関係施設が存在し、計画地は、海の森公園（仮称）の一部となっている。

5) 法令等による基準等

生物・生態系に関する法令等については、表 9.2-30(1) 及び(2) に示すとおりである。

表 9.2-30(1) 生物・生態系に関する法令等

法令・条例等	責務等
文化財保護法 (昭和 25 年法律第 214 号)	(文化財の定義) 第二条 四 貝づか、古墳、都城跡、城跡、旧宅その他の遺跡で我が国にとって歴史上又は学術上価値の高いもの、庭園、橋梁、峡谷、海浜、山岳その他の名勝地で我が国にとって芸術上又は観賞上価値の高いもの並びに動物（生息地、繁殖地及び渡来地を含む。）、植物（自生地を含む。）及び地質鉱物（特異な自然の現象の生じている土地を含む。）で我が国にとって学術上価値の高いもの（以下「記念物」という。） (現状変更等の制限及び原状回復の命令) 第二百二十五条 史跡名勝天然記念物に関しその現状を変更し、又はその保存に影響を及ぼす行為をしようとするときは、文化庁長官の許可を受けなければならない。ただし、現状変更については維持の措置又は非常災害のために必要な応急措置を執る場合、保存に影響を及ぼす行為については影響の軽微である場合は、この限りでない。
絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律 (平成 4 年法律第 75 号)	(目的) 第一条 この法律は、野生動植物が、生態系の重要な構成要素であるだけでなく、自然環境の重要な一部として人類の豊かな生活に欠かすことのできないものであることに鑑み、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存を図ることにより、生物の多様性を確保するとともに、良好な自然環境を保全し、もって現在及び将来の国民の健康で文化的な生活の確保に寄与することを目的とする。 (責務) 第二条 国は、野生動植物の種（亜種又は変種がある種にあっては、その亜種又は変種とする。以下同じ。）が置かれている状況を常に把握し、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する科学的知見の充実を図るとともに、その種の保存のための総合的な施策を策定し、及び実施するものとする。 2 地方公共団体は、その区域内の自然的社会的諸条件に応じて、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存のための施策を策定し、及び実施するよう努めるものとする。 3 国民は、前二項の国及び地方公共団体が行う施策に協力する等絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に寄与するように努めなければならない。 (捕獲等の禁止) 第九条 国内希少野生動植物種及び緊急指定種（以下この節及び第五十四条第二項において「国内希少野生動植物種等」という。）の生きている個体は、捕獲、採取、殺傷又は損傷（以下「捕獲等」という。）をしてはならない。ただし、次に掲げる場合は、この限りでない。 一 次条第一項の許可を受けてその許可に係る捕獲等をする場合 二 生計の維持のため特に必要があり、かつ、種の保存に支障を及ぼすおそれのない場合として環境省令で定める場合 三 人の生命又は身体の保護その他の環境省令で定めるやむを得ない事由がある場合
鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律 (平成 14 年法律第 88 号)	(目的) 第一条 この法律は、鳥獣の保護及び管理を図るための事業を実施するとともに、猟具の使用に係る危険を予防することにより、鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化を図り、もって生物の多様性の確保（生態系の保護を含む。以下同じ。）、生活環境の保全及び農林水産業の健全な発展に寄与することを通じて、自然環境の恵沢を享受できる国民生活の確保及び地域社会の健全な発展に資することを目的とする。 (鳥獣の捕獲等及び鳥類の卵の採取等の禁止) 第八条 鳥獣及び鳥類の卵は、捕獲等又は採取等（採取又は損傷をいう。以下同じ。）をしてはならない。ただし、次に掲げる場合は、この限りでない。 一 次条第一項の許可を受けてその許可に係る捕獲等又は採取等をするとき。 二 第十一条第一項の規定により狩猟鳥獣の捕獲等をするとき。 三 第十三条第一項の規定により同項に規定する鳥獣又は鳥類の卵の捕獲等又は採取等をするとき。

表 9.2-30(2) 生物・生態系に関する法令等

法令・条例等	責務等
特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律 (平成 16 年法律第 78 号)	(目的) 第一条 この法律は、特定外来生物の飼養、栽培、保管又は運搬（以下「飼養等」という。）、輸入その他の取扱いを規制するとともに、国等による特定外来生物の防除等の措置を講ずることにより、特定外来生物による生態系等に係る被害を防止し、もって生物の多様性の確保、人の生命及び身体の保護並びに農林水産業の健全な発展に寄与することを通じて、国民生活の安定向上に資することを目的とする。 (飼養等の禁止) 第四条 特定外来生物は、飼養等をしてはならない。ただし、次に掲げる場合は、この限りでない。 一 次条第一項の許可を受けてその許可に係る飼養等をする場合 二 次章の規定による防除に係る捕獲等その他主務省令で定めるやむを得ない事由がある場合 (放出等の禁止) 第九条 飼養等、輸入又は譲渡し等に係る特定外来生物は、当該特定外来生物に係る特定飼養等施設の外で放出、植栽又はは種（以下「放出等」という。）をしてはならない。ただし、次に掲げる場合は、この限りでない。 一 次条第一項の許可を受けてその許可に係る放出等をする場合 二 次章の規定による防除に係る放出等をする場合

6) 東京都等の計画等の状況

生物・生態系に関する東京都等の計画等については、表 9.2-31 に示すとおりである。

表 9.2-31 生物・生態系に関する計画等

関係計画等	目標・施策等
第 11 次鳥獣保護管理事業計画 (平成 27 年 3 月 東京都)	・人と野生鳥獣との共生の確保及び生物多様性の保全を基本として、野生鳥獣を適切に保護及び管理することにより、鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律（以下「法」という。）第 4 条第 1 項の目的を達成するため、国の定める「鳥獣の保護及び管理を図るための事業を実施するための基本的な指針」に基づき、東京都の地域事情を勘案して、「第 11 次鳥獣保護管理事業計画」を定める。 第一 計画の期間 第二 鳥獣保護区、特別保護地区及び休猟区に関する事項 第三 鳥獣の人工増殖に関する事項 第四 鳥獣の捕獲等及び鳥類の卵の採取等の許可に関する事項 第五 特定猟具使用禁止区域、特定猟具使用制限区域及び猟区に関する事項 第六 特定計画に関する事項 第七 鳥獣の生息状況の調査に関する事項 第八 鳥獣保護管理事業の実施体制に関する事項 第九 その他
植栽時における在来種選定ガイドライン (平成 26 年 5 月 東京都)	・東京都は、緑の「量」の確保に加え、生態系への配慮など緑の「質」を高める施策を進めており、その地域に自然に分布している植物（以下「在来種」という。）を増やすことで、在来の生きものの生息場所を拡大する取組を行っている。本ガイドラインは、都民や事業者が緑化をする際に参考となるものとして作成されている。

9.2.2 予測

(1) 予測事項

予測事項は以下に示すとおりとした。

- 1) 陸上植物の植物相及び植物群落の変化の内容及びその程度
- 2) 陸上動物の動物相及び動物群集の変化の内容及びその程度
- 3) 生育・生息環境の変化の内容及びその程度
- 4) 生態系の変化の内容及びその程度

(2) 予測の対象時点

予測の対象時点は、東京 2020 大会の実施に伴う建設工事等での改変や施設撤去後の現状回復等において、生物・生態系に変化が生じる又は生じていると思われる時点とし、大会開催前、大会開催中、大会開催後のそれぞれ代表的な時点又は期間のうち、大会開催前とした。

(3) 予測地域

予測地域は、計画地及びその周辺地域とした。

(4) 予測手法

予測手法は、東京 2020 大会の実施計画を基に、生物・生態系の変化の程度を把握して予測する方法とした。

(5) 予測結果

1) 陸上植物の植物相及び植物群落の変化の内容及びその程度

事業の実施に伴い、計画地内の草本群落や、植栽後の時間経過が短く樹高の低い植樹林が改変される。なお、現地調査の結果、計画地内にはジャヤナギ、オノエヤナギ、ツツイトモ、セイタカヨシの注目される種が確認されており、ジャヤナギ、ツツイトモの生育地は改変されない。一方、セイタカヨシ、オノエヤナギの生育地の一部は改変される。

事業の実施に当たっては、広場予定地を中心に芝コースを配置し、植樹エリアの改変が可能な限り少なくなる計画としている。また、計画地内に生育する約 2 万本の既存樹木（9 割以上は幼苗・幼木）については、基本的に海の森公園（仮称）内へ樹齢や樹種等に応じて適切に移植する計画としている。これにより、計画地内の植樹地はほぼ保全されることから、周辺地域も含めた植物相及び植物群落は維持されると予測する。

2) 陸上動物の動物相及び動物群集の変化の内容及びその程度

事業の実施に伴い、植樹林や草地等が改変され、これらを主たる生息地とする鳥類のヒバリ、バッタ目、コウチュウ目等の昆虫類や移動性の低い土壌動物等の生息地が改変される。また、現地調査の結果、計画地内では鳥類のモズ、チョウゲンボウ及びノスリ、昆虫類のハイイロヤハズカミキリ、エリザハンミョウ、クモ類のヨコフカニグモの注目種が確認されており、これらの生息地の一部は改変される。

事業の実施に当たっては、広場予定地を中心に芝コースを配置し、植樹エリアの改変が可能な限り少なくなる計画としている。また、計画地内に生育する既存樹木については、基本的に海の森公園（仮称）内へ樹齢や樹種等に応じて適切に移植する計画としている。これにより、計画地内の生育した植樹林植樹地はほぼ保全されることから、陸上動物の生息環境と動物相及び動物群集は維持されると予測する。また、確認された鳥類、は虫類、昆虫類の注目される種

は、計画地周辺においても確認されており、周辺地域も含めた生息が維持されると予測する。

3) 生育・生息環境の変化の内容及びその程度

事業の実施に伴い、計画地内の動植物の生育・生息環境となる植樹林や草地環境の一部が改変され、周辺の植物群落の生育環境と、移動性の低い動物相及び動物群集(昆虫類の幼虫、土壌動物等)の生息環境が変化するおそれがあると予測する。

事業の実施に当たっては、広場予定地を中心に芝コースを配置し、植樹エリアの改変が可能な限り少なくなる計画としている。また、計画地内に生育する既存樹木については、基本的に海の森公園(仮称)内へ樹齢や樹種等に応じて適切に移植を行う計画としているほか、芝コース・ウォームアップエリアには在来種のノシバを張芝する計画としていることから、動植物の生育・生息環境は維持されるものとする。

4) 生態系の変化の内容及びその程度

事業の実施に伴い、計画地内の植樹林や草地環境の一部が改変され、生態系を構成する陸上植物、陸上動物が相互に係る生育・生息環境が変化するおそれがあると予測する。

事業の実施に当たっては、広場予定地を中心に芝コースを配置し、植樹エリアの改変が可能な限り少なくなる計画としている。また、計画地内に生育する既存樹木については、基本的に海の森公園(仮称)内へ樹齢や樹種等に応じて適切に移植を行う計画としているほか、芝コース・ウォームアップエリアには在来種のノシバを張芝する計画としていることから、生態系は維持されるものと考えられる。

9.2.3 ミティゲーション

(1) 予測に反映した措置

- ・ 広場予定地を中心に芝コースを配置し、植樹エリアの改変が可能な限り少なくなる計画としている。
- ・ 計画地内に生育する約2万本の既存樹木（9割以上は幼苗・幼木）については、基本的に海の森公園（仮称）内へ樹齢や樹種等に応じて適切に移植する計画としている。
- ・ 芝コース・ウォームアップエリアには在来種のノシバを張芝する計画としている。

(2) 予測に反映しなかった措置

- ・ 樹林地内に配置する芝コースの路盤は「山砂＋土壌改良材」とし、自然遷移が進みやすく樹林地に戻る構造とする。
- ・ 移植後の状況については、フォローアップで確認する。

9.2.4 評価

(1) 評価の指標

評価の指標は、生物・生態系の現況とした。

(2) 評価の結果

事業の実施に伴い、計画地内の動植物の生育・生息環境となる植樹林や草地環境、土壌の一部が改変されるが、広場予定地を中心に芝コースを配置し、植樹エリアの改変が可能な限り少なくなる計画としている。また、計画地内に樹木による新たな緑化は創出しないが、計画地内に生育する既存樹木については、基本的に海の森公園（仮称）内へ樹齢や樹種等に応じて適切に移植を行い、移植後の状況については、フォローアップで確認する計画であるほか、芝コース・ウォームアップエリアには在来種のノシバを張芝する計画としている。

以上のことから、計画地における生物の生育・生息環境は一部減少または変化するものの、生物・生態系の現況は維持され、評価の指標は満足するものと考ええる。

